

自
立
語
の
部

3 自立語の部

あ

あいぎやうづ・く「愛敬づく」《動四段》

―きハ用V 八九⑨

あいぎやうな・し「愛敬無し」《形ク活》

―くハ用V 四①

あいな・し《形ク活》

―くハ用V 五⑥

あかし「明石」ハ人名V 一七①①

あかし「明石」ハ卷名V 一六⑥

あかし「明石」ハ地名V 三⑫

あか・し「明かし」《形ク活》

―かりハ用V 九⑨

―きハ用V 八⑨

あかしのおんかた「明石の御方」 三九⑥

あかしのきみ「明石の君」 三六⑪

あかしのにふだう「明石の入道」 三⑭

あか・す「明かす」《動四段》cf. るあかす

―さハ未V *三⑨ 九⑬

―しハ用V 九⑫

あかぞめ「赤染」 八⑦

あかつき「眺」 三〇⑨ 三⑭ *六⑤

三① 四⑭ 五⑧

あからさま・なり《形動ナリ活》

―にハ用V 二⑨ 五⑫

あが・る「上がる」《動四段》

―りハ用V 四④

あき「秋」 八⑧ *一六⑨ *三⑥ *三⑤

*三④ *四⑦

あきかせ「秋風」 三② 三① *七⑤

あきもとのちゆうなごん「顕基の中納言」 九①

あ・く「明く」《動下二段》

―けハ用V 五⑬

あ・く「開く」《動四段》

―きハ用V 二② 九⑪

あ・く「開く」《動下二段》

―けハ用V 三⑭

あ・く「飽く」《動四段》

―かハ未V *三⑫

あ・ぐ「上ぐ」《動下二段》cf. うちあぐ

・ふきあぐ

―げハ未V 三②

あくが・る「懂る」《動下二段》

―るハ止V 三②

あくがれい・づ「懂れ出づ」《動下二段》

―づるハ用V *三④

あげがた「明け方」 五⑨

あげくれ「明け暮れ」《副》 五⑫

あげぐれ「明け暗れ」 *三⑥

あさがほ「權」ハ卷名V 一六⑭

あさがほ「朝顔」 *五③

あさがほのみや「朝顔の宮」 一八①

あさぎり「朝霧」 *五⑥

あさくら「朝倉」ハ作品名V 六⑤

三⑤

あさごと「朝毎」 一⑧

あさ・し「浅し」《形ク活》

―からハ未V 四⑥ 四⑫ 五⑦

―けれハ已V *八⑬

あさちがすゑ「浅茅が末」 *四⑥

あさちがはら「浅茅が原」 *四⑦

あさちがはらのないしのかみ「浅茅が原の尚侍」ハ作品名V 三③

あさちぶ「浅茅生」 *四④

あさばらけ「朝朗け」 *五⑨

あさま・し《形シク活》

―しくハ用V 二⑨ 五④ 五⑫

三⑬ 六⑦③ 六⑦④ 九④ 九⑫④

―しハ止V 三②

―しきハ用V 三⑭ 三⑬ 三⑥

あさましが・る (動四段) 四① 四⑫ 五⑬

一りへ入用V 六⑬

あざやか・なり「鮮かなり」《形動ナリ活》

一へ入用V 五⑫ 五⑬ 五⑭ 五⑮

あさゆふ「朝夕」 一四⑨

あ・し「悪し」《形シク活》cf. よしあし

一しくへ入用V 一八⑦ 六⑥ 六⑦ 六⑧ 六⑨

一しきへ入体V 七⑫

あしがき「葦垣」 三六⑤

あしせん「阿私仙」 四⑧

あした「朝」cf. のわきのあした

一七② 三六⑤ 五⑫ 六⑪ 六⑫ 六⑬ 六⑭

あす「明日」 四③

あせ「汗」 一三②

あぜちのだいなごん「按察の大納言」

あぜちのだいなごんのうへ「按察の大納言の上」 六①

あそび「遊び」 cf. てんじやうのあそび

あそ・ぶ「遊ぶ」 cf. ひきあそぶ・もて

あそぶ

あだ・なり「徒なり」《形動ナリ活》

一へ入用V 一〇⑫

あたら・し「新し」《形シク活》cf. こと

あたらし

一しくへ入用V 八⑥

一しうへ入音便V 六⑭

あたり「辺」cf. おんあたり・わたり

三〇⑪ *三〇⑫ 六二⑦ 六二⑧

あ・つ「当つ」cf. おしあつ

あつ・む「集む」cf. かきあつむ

あてやか・なり「貴かなり」《形動ナリ活》

一へ入用V 四①

あと「後」 八⑬ 八⑭ 九⑯

あと「跡」 一〇⑭ 四⑦ 五⑦ 五⑧

あとかた「跡形」 三②

あな《感》 五⑬

あながち・なり「強ちなり」《形動ナリ活》

一へ入用V 六③ 一四⑥

あなづらは・し「侮らはし」《形シク活》

一しくへ入用V 五⑥

あなづ・る「侮る」cf. おもひあなづる

あなめ cf. あなめあなめ

あなめあなめ《連》 *五九⑤

あに「兄」 五②

あね「姉」 五⑤

あねうへ「姉上」 四⑥ 四⑦ 四⑧ 四⑨

あねぎみ「姉君」 六①

あねみや「姉宮」cf. うちのあねみや

一七⑦

あの「彼の」《連》 二〇⑧

あは・す「合はす」cf. うちあはす・おもひあはす・きこえあはす・ごらん

あはす・みあはす

あはせ「合はせ」cf. あはせ

あはひ「間」cf. おんあはひ

あば・る「荒る」《動下二段》

一れへ入用V 三⑥

あはれ「哀れ」 四⑬ 四⑭ 四⑮ 四⑯ 四⑰ 四⑱

六⑦

あはれ「哀れ」《感》 *五九⑨ 五⑩

あはれ・なり「哀れなり」《形動ナリ活》

あはれへ語幹V 三⑨ 六① *三⑫

一なりへ入用V 二⑬

一へ入用V 三⑤ 五⑤ 一〇③ 一〇⑬

5 自立語の部

あ・ふ「合ふ・逢ふ」《動四段》
 一ひ入用▽ 九¹⁴

あひむか・ふ「相向かふ」《動四段》
 一み入未▽ 九¹¹

あひ・みる「相見る」《動上一段》
 六¹⁴ 八¹⁸

一なる入体▽
 一七⁵ 二七¹² 三九¹¹ 四〇⁴ 四二¹²
 四三¹¹ 五七³ 五七⁶ 五八² 六八¹¹
 八⁴ 九¹²

一なれ入巴▽
 五⁶ 五² 五⁴ 六³ 六⁷ 六¹⁴

一なり入止▽
 三六¹¹ 三九⁸ 三九¹⁰ 三三³ 四二¹⁰
 四三³ 四三⁸ 五八¹⁰ 六三⁹ 六五⁹
 七〇⁹ 八三¹⁴ 八四² 九二²

九〇⁶ 九一⁴ 九七⁵ 一〇六¹⁰
 一〇四¹⁴ 一〇五⁵ 一〇六⁶ 一〇九⁵
 一〇五⁵ 一〇六⁶ 一〇七³ 一〇九³
 一〇九⁵ 一一〇¹¹ 一一一¹¹ 一一三¹³
 一一二⁵ 一一六⁵ 一一六⁶ 一二二² 一二七¹⁰
 一三〇¹ 一三〇³ 一三五³ 一三四⁴
 一三二⁸ 一三三⁸ 一三三⁹ 一三四⁹
 一三五³ 一三五⁵ 一三五⁶ 一三五⁹
 一三六⁴ 一三六⁶ 一三七⁷ 一三九³
 一四〇¹⁴ 一四一⁵ 一四二⁶ 一四三⁵
 一四三⁸ 一四三⁹ 一四四¹⁰

cf. いあふ・かきあふ・かへりあふ
 ・つどひあふ・とひたつねあふ・に
 くみあふ・みだれあふ・むまれあふ
 ・めぐりあふ・ゆきあふ

一は入未▽ *五⁸ 九¹¹

一ひ入用▽ 三¹³ 三¹⁴ 四³ 六³
 六¹¹ 六¹¹

一ふ入体▽ *九¹⁴

あ・ふ「敢ふ」《動下二段》
 一へ入未▽ 四⁶ *八³

あふぎ「扇」 五¹²

あふぎのかぜ「扇の風」 *三⁷ 六¹¹

あふ・く「仰ぐ」《動四段》
 一ぎ入用▽ 三¹³

あふさかのせき「逢坂の関」 八⁷

あふひ「葵」入巻名▽ 二²

あふひのうへ「葵の上」 一¹¹ 一¹³
 三⁹ 三¹²

あふみのうみ「近江の海」 八⁸

あま「尼」 四³ 六¹³

あま「蟹」 *二¹³ *三¹⁴ *三¹⁷

あまくだ・る「天下る」《動四段》
 一り入用▽ 四³ 四²

あますがた「尼察」 一³

あまた「教多」《副》 一⁹ 一¹⁶ 五⁶
 五¹⁴ 六¹⁴ 七³ 七⁹ 七⁴
 七⁶ 九¹¹ 九¹⁴

あまつをとめ「天つ乙女」 七¹⁴

あまのかるも「海人の菫」入作品名▽
 六⁹ 六¹⁰ 六¹⁰

あまのと「天の戸」 *四³ 六⁶

あまのはしたて「天の橋立」 *八⁹

あまよのおんものがたり「雨夜の御物語」 三³

あまよのしなざだめ「雨夜の品定め」
 一¹⁴ 五⁶

あまり「余り」 九¹⁰

あまり「余り」《副》 二⁹ 三² 六¹⁰

あまり「余り」《接尾》 cf. やそぢあまり
 みとせ

あまりに「余りに」《副》 一⁷ 一¹¹
 三⁷ 三¹¹ 三¹² 四⁵ 五⁵
 五³ 六¹⁰ 六¹³ 七² 七²
 七⁶ 八³

あま・る「余る」《動四段》 cf. おもひあ
 まる

一る入体▽ 六¹²

あみだぶつ「阿弥陀仏」 cf. おもひあみだ

ぶつ

二三③

あみだぼとけ「阿弥陀仏」cf.あみだぶつ

あめ「雨」二九① *二九③

あや・し「賤し」《形シク活》

あやしハ語幹V 一四⑤ 七⑩ 一⑦

六⑩

あやにくだ・つ「生憎立つ」《動四段》

―ちハ用V 四九④

あやにく・なり「生憎なり」《形動ナリ活》

―なるハ体V 四六①

あやま・る「誤る」cf.おもひあやまる

あや・む「怪む」《動下二段》

―めハ用V 四九⑩

あゆみい・る「歩み入る」《動四段》

―りハ用V 三⑨

―るハ体V 二③

あゆみゆ・く「歩み行く」《動四段》

―くハ体V 二① 二⑨

あゆみよ・る「歩み寄る」《動四段》

―りハ用V 三⑤ 四④

あらし「嵐」*四七④ *四七⑥

あら・す「荒す」《動四段》

―しハ用V *三⑭

あらそ・ふ「争う」《動四段》

―ふハ体V 二九①

あらた・む「改む」《動下二段》

―めハ未V 一九③

―めハ用V 二②⑦

あらは・す「表はす・著はす・現はす・顕はす」《動四段》cf.かきあらはす

・ききあらはす・きこえあらはす・みあらはす

―しハ用V 九⑬

―すハ体V 二⑥

あらは・る「現はる」《動下二段》

―れハ用V 四③ 四④①

あらまほ・し「有らまほし」《形シク活》

―しくハ用V 三⑥ 三③ 七①

―しきハ体V 三① 八⑩

―しけれハ已V 七⑭

あららか・なり「荒らかなり」《形動ナリ活》

―にハ用V 二⑭

あ・り「有り・在り」《動ラ変》cf.こころあり・ただありなり

―らハ未V 一〇⑫ 二⑥ 二② 二⑩ 一⑩

一四⑧ 二〇③ 三③ 二六⑬ 二六⑭

二七⑤ *四⑦ 四⑫ 四⑫ 四⑩

*四七⑪ 四③ 五⑨ 五① 五⑫

*四⑬ 五⑫ 五⑪ 六⑨ 六②

六④ 七② *六⑪ *六① 六④

六③ 九③ 九⑥ 九⑫

―りハ用V 五⑥ 九⑧ 二① 一四⑧

二五② 二五④ 一七② 二② 二六①

四⑭ 四⑭ 四② 四⑨ 四⑪

*四⑬ *四⑨ *五⑨ 五③

五⑦ 五⑩ 五⑩ 六① 六②

*六③ 七⑨ *七⑩ 八⑦ 九⑬

九③

―りハ止V 四⑧ 五④ 九② 二④

三① 三⑪ 六⑪ 六⑥ 六①

―るハ体V 二⑦ 八① 八② 八⑤

一〇① 一四② 一四⑦ 一六⑩ 一六⑭

一七④ 二⑭ 二④ 二⑪ 三⑧

二六③ 二六⑭ 二⑤ 二九④ 二九⑭

三⑥ 三⑨ 三① 三② 三④

三⑩ 三⑫ 三③ 三④① 三④③

三⑨ 三⑧ 三⑩ 三③ 三⑥

三⑦ 三⑤ 三⑭ 三⑧① 三③③

7 自立語の部

ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑩ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑩ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑩ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

いかばかり「如何ばかり」《副》 四〇

一三〇 七三〇 九〇⑥

いきい・づ「生き出づ」《動下二段》

一で八用 五〇⑨

い・く「生く」《動四段》

一く八止 五三⑥「行く」ヲカケル

い・く「行く」《動四段》

一か八未 四三⑫

いくとせ「幾年」 九⑪

いくの「生野」 六二⑨

いささか「聊か」《副》 五五②

いさ・む「諫む」《動下二段》

一め八未 三〇④

いさや《感》 一四④

いさよひのつき「十六夜の月」 五三④

いしやま「石山」 三三⑥

いせ「伊勢」△地名 一六③ 三六⑦

いせ「伊勢」△作品名 三三⑭

いせのたいふ「伊勢の大輔」 八五⑧

いせのみやすどころ「伊勢の御息所」

八五⑪

いせものがたり「伊勢物語」 三三⑨

三三⑪

いた・し「甚し」《形ク活》

一く八用 二四⑬ 二六⑦ 二九⑩ 五九④

三三① 九一①

一かり八用 三三⑤

一き八体 五九⑧

いた・し「痛し」《形ク活》 cf.かたはら

いたし

一く八用 五九⑩

いだしい・る「出し入る」《動下二段》

一れ八用 五九⑧

いだした・つ「出し立つ」《動下二段》

一て八未 五七⑦

いだ・す「出だす」《動四段》 cf.しいだ

す・つくりいだす・ひきいだす・み

いだす

一し八用 三三① 三五⑩ 九三④

いたづら・なり「徒なり」《形動ナリ活》

一に八用 一② 五三④

いたりな・し「至り無し」《形ク活》

一き八体 四二②

いた・る「至る」《動四段》

一ら八未 三六⑩ 三三②

一る八体 三三⑫ 三三⑦

いち「一」 cf.だいらち

いちげいっく「一擲一句」 二四①

いちじつ「一日」 cf.しゃうぐわついち

じつ

いちでうのうへ「一条の上」 六七⑫

いちでうめん「一条院」 八〇④ 九一⑬

いちでうめんのにしたい「一条院の西

の対」 六四⑩

いちどに「一度に」《副》 五〇⑦

いちのおとど「一の大臣」 四二②

いちのまき「一の巻」 六二⑫

いちのみや「一の宮」 cf.せんないちの

みや

いちはや・し「逸速し」《形ク活》

一き八体 三三①

いちぶ「一部」 六八⑧ 七〇⑨

いちもんじ「一文字」 八九⑤

いつ「何時」《代》 五三⑫

い・づ「出づ」《動下二段》 cf.あくがれ

いづ・いきいづ・いひいづ・おきいづ

いづ・おほいづ・おもひいづ・かき

いづ・きこえいづ・こひいづ・さし

いづ・しいづ・たちいづ・たづねいづ

いづ・つくりいづ・とりいづ・にほひ

いづ・ひろめきいづ・まちいづ・み

いづ・めしづ・よみいづ・みせり

三② 三④ 三⑤ 三⑥ 三⑭

五⑥ 五⑧ 五⑨ 五⑫ 五⑬

七① 七⑫ 七⑬ 七⑭ 七⑰

七⑱ 七⑳ 七㉑ 七㉒ 七㉓

八⑧ 八⑪ 八⑫ 八⑬ 八⑭

八⑮ 八⑯ 八⑰ 八⑱ 八㉑

八㉒ 八㉓ 八㉔ 八㉕ 八㉖

八㉗ 八㉘ 八㉙ 八㉚ 八㉛

九⑩ 九⑬ 九⑭ 九⑮ 九⑯

九㉑ 九㉒ 九㉓ 九㉔ 九㉕

九㉖ 九㉗ 九㉘ 九㉙ 九㉚

九㉛ 九㉜ 九㉝ 九㉞ 九㉟

九㊱ 九㊲ 九㊳ 九㊴ 九㊵

九㊶ 九㊷ 九㊸ 九㊹ 九㊺

九㊻ 九㊼ 九㊽ 九㊾ 九㊿

一〇① 一〇② 一〇③ 一〇④ 一〇⑤

一〇⑥ 一〇⑦ 一〇⑧ 一〇⑨ 一〇⑩

一〇⑪ 一〇⑫ 一〇⑬ 一〇⑭ 一〇⑮

一〇⑯ 一〇⑰ 一〇⑱ 一〇㉑ 一〇㉒

一〇㉓ 一〇㉔ 一〇㉕ 一〇㉖ 一〇㉗

一〇㉘ 一〇㉙ 一〇㉚ 一〇㉛ 一〇㉜

一〇㉝ 一〇㉞ 一〇㉟ 一〇㊱ 一〇㊲

六⑥

いと・む「挑む」《動四段》

一み八用V 三⑨

いなば「稲葉」 三②

いな・ぶ「辞ぶ」《動上二段》

一び八用V 七②

いにしへ「古へ」 *三⑥

い・ぬ「往ぬ」《動ナ変》

一な八未V *七⑪

いのち「命」 cf. おんいのち

三⑪ *三⑩ 三⑬ 四⑪ 四⑭

*四⑦ *四⑧ 四⑫ 五⑪ 八⑫

いのり「祈り」 cf. おんいのり

いは「岩」 三⑩

いはうつなみ「石打つ波」八作品名V

いはは「葎」 五⑪

いはもるちゅうじゃう「岩漏る中將」

二⑨

いひ「言ひ」 cf. ものこひ

いひあ・ふ「言ひ合ふ」《動四段》

一へ八已V 七⑬

いひい・づ「言ひ出つ」《動下二段》

いひか・く「言ひ掛く」《動下二段》

一け八用V 六⑫

いひきか・す「言ひ聞かす」《動下二段》

一せ八用V 一五⑦

いひくた・す「言ひ腐す」《動四段》

一し八用V *六④

いひた・つ「言ひ立つ」《動四段》

一ち八用V 六②

いひつく・す「言ひ尽す」《動四段》

一す八止V 三⑥

いひつた・ふ「言ひ伝ふ」《動下二段》

一へ八用V 一三⑪

いひとど・む「言ひ止む」《動下二段》

一め八用V 三②

いひなやま・す「言ひ悩ます」《動四段》

一し八用V 五⑨

いひならは・す「言ひ慣らはす」《動四段》

一し八用V 一〇⑬

いひはじ・む「言ひ始む」《動下二段》

一め八用V 五③ 一五⑩

いひふち・す「言ひ触らす」《動四段》

一す八体V 六⑫

いひまさぐ・る「言ひ弄る」《動四段》

一り八用V 二四⑥

ーるへ体V 五二⑪
 いひや・る「言ひ遣る」《動四段》
 ーるへ体V 三六⑤
 い・ふ「言ふ」《動四段》 cf.ものいふ
 ーはへ未V 九三⑬ 一三① 一三② 一六②
 二五⑨ 三九⑪ 四九⑧ 五〇⑩ 五五⑨
 五九④ 六九⑥ 七七⑨ *七九⑤ 九三⑪
 九三⑫
 ーひへ用V 七九⑦ 七⑪ 一五⑨ 三⑨
 三④ 二六⑤ 三② 四〇③ 四三⑪
 四② *四六⑭ 四九⑬ 五〇④ 五七⑦
 五八⑦ 五八⑧ 六四④ 六六③ 六六⑬
 七〇⑩ 七六④ 八五⑦ 八七③ 九三③
 ーふへ止V 一〇⑬ 一四② 一四④ 一八⑥
 一八⑦ 一九① 三① 三六⑨ 三七⑤
 四〇⑦ 四三④ 四四⑧ 四六④ 五〇⑭
 五三⑭ 五七③ 六二⑧ 六六⑧ 六九⑥
 七四⑦ 八六⑥ 八七⑧ 九三⑩
 ーふへ体V 四⑧ 四⑨ 八② 九②
 九⑪ 一〇⑧ 二④ 二⑬ 一七⑫
 一八⑤ 二六④ 三三⑧ 三三⑬ 四二⑪
 四三④ 四三⑥ 四四④ 四四⑪
 四七⑦ 五〇① 五〇① 五二② 五二⑫
 五三⑬ 五三⑬ 五五⑦ 五九⑨ 六三⑦

六二② 六三③ 六三⑩ 六七⑫ 六六⑤
 七① 七五⑫ 七六② 八〇⑦ 八⑥
 八⑧ 八八⑬ 八九① 八九② 九五⑨
 ーへへ已V 五⑨ 一〇⑩ 一三④ 一三⑦
 一四⑧ 一五④ 一五⑥ 一五⑦ 一五⑪
 一七⑧ 一七⑩ 一八④ 一八⑫ 二〇⑧
 二⑧ 三③ 三⑥ 二七② 二七⑧
 二七⑫ 四〇⑩ 四九③ 四九⑩ 五〇⑪
 五⑫ 五⑫ 五① 五七① 五七⑫ 五七⑫
 五八⑭ 五九⑫ 六⑤ 六① 六九⑩
 七⑥ 七⑪ 七⑥ 七⑨ 七⑬
 七五⑭ 七① 七④ 七七⑭ 七六②
 七九① 七九⑭ 八⑨ 八四⑦ 八九⑫
 九〇① 九④ 九⑫ 九三⑭
 いかかひな・し「言ふ甲斐無し」《形ク活》
 ーくへ用V 四②
 ーしへ止V 六③
 ーきへ体V 三⑪
 いふせ・し《形ク活》
 ーくへ用V 三⑥
 いへ「家」 cf.いへいへ
 いへいへ「家家」 五④
 いま「今」 cf.ただいま

六⑨ 六⑪ 七⑩ 八⑩ 八⑭ 二③ 三③
 三② 二九① *三〇⑧ *三三⑧
 *三三⑭ 四〇⑤ 四⑨ 五九⑤ 六⑪
 六九⑪ 七① 八⑭ 八五⑫ 八七⑦
 *九③ 九③ *九⑭ 九三③ 九三⑭
 いまかくれみの「今隠れ蓑」へ作品名V
 五九⑨
 いますこし「今少し」《副》 六⑭ 三③
 四⑬ 五⑬ 七① 七⑭ 八九⑭
 いまだ「未だ」《副》 一五⑤ 七⑭ 八八⑬
 いまだに「未だに」《副》 五⑨
 いまとりかへばやへ作品名V 五九⑧
 六〇③
 いまのよ「今の世」 一〇⑧ 五九⑧ 五九⑩
 三⑩ 七⑭ 九⑧ 九三⑨
 いまは「今際」 *三⑥
 いまめか・し「今めかし」《形ク活》
 ーしくへ用V 七〇② 九三②
 いまやう「今様」 四⑨
 いみ「忌み」 cf.おんいみ 六八①
 いみ・じ《形ク活》
 ーじからへ未V 三⑬ 六⑨
 ーじくへ用V 一〇② 一〇③ 一〇⑬
 二⑧ 三⑬ 一四⑧ 一八② 一九⑧

- うきふねのみみ「浮舟の君」 二七④
 うきみ「憂き身」 *三三⑧
 うきよ「浮き世・憂き世」 *三〇⑧
 *三三⑩ 四九⑫ 五〇⑬
 う・く「浮く」《動下二段》
 ーけへ用▽ 三〇④
 うけたまは・る「承る」《動四段》
 ーりへ用▽ 五八⑧ 八八⑫
 ーるへ用▽ 九二⑭
 うけば・る「受け張る」《動四段》
 ーりへ用▽ 五二③
 う・し「憂し」《形ク活》 cf. ここころう
 し・すぎうし・みまうし
 ーきへ用▽ *三三⑪ *四六⑭ *四七⑮
 *三三④ *三六⑥
 うしろみ・す「後ろ見す」《動サ変》
 ーしへ用▽ 五二②
 うしろめた・し「後ろめたし」《形ク活》
 ーきへ用▽ 四九⑫
 う・す「失す」《動下二段》 cf. きえうす
 ーせへ用▽ 六一① 八二②
 ーせへ用▽ 三六⑥ 三九⑨ 四〇④ 五〇⑭
 *三三⑩ *三六⑥ 三九⑨ 四〇④ 五〇⑭
 うすすみこむも「薄曇衣」 *三三⑬
 うせ「失せ」 一七⑤ 一七⑦ 二六② 二七⑬
 二六⑥ 二六⑨ 三三⑤ 三三④ 三三④
 四一⑩ 五二② 五七③ 六六⑭
 うた「歌」 cf. おんびやうぶのうた・だ
 いのうた
 一四⑤ 三三⑬ 五三⑥ 五九② 五九④
 六〇② 六〇⑥ 六二① 六六⑤ 六六⑤
 七三⑤ 七三⑥ 七三⑪ 七三⑬ 七四①
 七四⑩ 七四⑫ 七四⑬ 七四⑭ 七四⑭
 七五⑪ 八六⑧ 八七⑥ 八八②
 うたかず「歌数」 八二⑬
 うたて《副》 五七⑪ 六〇⑧
 うたて・し《形ク活》
 ーけれへ用▽ 五七⑨ 六二⑨ 七五①
 うたども「歌ども」 cf. おんうたども
 七四⑧ 七四⑪ 七五⑥ 七五⑨ 七五⑩
 三二①
 うたのみち「歌の道」 八〇⑨
 うた・ふ「歌ふ」《動四段》
 ーはへ用▽ 三三⑩
 ーひへ用▽ 三三④ 三六⑤ 五三⑬
 うたよみ「歌詠み」 三三⑪ 八〇⑧ 八二④
 うち「内」 cf. ここらのうち
 三三⑩ 四一⑩ 五三⑥ 六六① 七三⑤ 七三⑬
 うち「内裏」 五三⑭ 五五⑥ 六四⑫ 七〇⑧
 六四⑫
 うち「宇治」 六五⑤ (存疑)
 うちあ・く「打ち上ぐ」《動下二段》
 ーげへ用▽ 六三⑬ 七〇⑥
 うちあは・す「打ち合はす」《動下二段》
 ーせへ用▽ 五三⑫
 うちいで「打ち出で」 九二⑧ 九三③
 うちうなづ・く「打ち領く」《動四段》
 ーきへ用▽ 五三⑩
 うちお・く「打ち置く」《動四段》
 ーきへ用▽ 五三⑩
 うちおもひつづ・く「打ち思ひ続く」
 《動下二段》
 ーけへ用▽ 三三①
 うちおも・ふ「打ち思ふ」《動四段》
 ーひへ用▽ 三三③
 うちき・く「打ち聞く」《動四段》
 ーかへ用▽ 一四⑥
 うちくも・る「打ち曇る」《動四段》
 ーりへ用▽ 三六⑥
 うちささめ・く「動四段》
 ーきへ用▽ 三七⑥
 うちしき(存疑) 七三①

うちし・く「打ち頼く」《動四段》

―けへ入用 二六⑭

うち・す「打ち為」《動サ変》

―しへ入用 二七⑮ 二七⑰

うちず・す「打ち誦す」《動サ変》

―しへ入用 二六⑨

うちずん・ず「打ち誦んず」《動サ変》

―じへ入用 三〇⑭

うちと・く「打ち解く」《動下二段》

―けへ未用 二六④ 二六⑥

―けへ入用 二六④

うちなが・む「打ち眺む」《動下二段》

―めへ入用 二七⑨

うちな・く「打ち泣く」《動四段》

―きへ入用 二六⑮

うちなび・く「打ち靡く」《動四段》

―きへ入用 二六⑭

うちなみだく・む「打ち涙ぐむ」《動四段》

段)

―みへ入用 二二⑮

うちぬら・す「打ち濡らす」《動四段》

―しへ入用 二〇④

うちのあねみや「宇治の姉宮」 二八⑧

三四④

うちのうへ「内裏の上」 三〇⑧

うちのおとど「内の大匠」 二六⑭ 二八③

六〇⑮

うちのかはなみ「宇治の河波」へ作品

名 二六⑩

うちのなかのみき「宇治の中の君」

二六②

うちのなかのみや「宇治の中の宮」

三〇⑥

うちのゆかり「宇治の縁」 一七⑥ 二七⑧

うちは「団扇」 三四④

うちはこ・ぶ「打ち運ぶ」《動四段》

―びへ入用 二七③

うちはじ・む「打ち始む」《動下二段》

―めへ入用 二五⑫ 二五⑬ 四〇⑪ 五七④

うちはら・ふ「打ち払ふ」《動四段》

―ひへ入用 二六⑭ 二六⑯

うち・みる「打ち見る」《動上一段》

―みへ入用 二六⑭ 二七⑦

うちむか・ふ「打ち向かふ」《動四段》

―ひへ入用 二六⑭

うちわたり「内裏辺り」 二二⑭

うちわら・ふ「打ち笑ふ」《動四段》

―ひへ入用 二九① 二六⑧

う・つ「討つ」《動四段》

―ちへ入用 二六⑥

うつく・し「美し」《形シク活》

―しうへ音便 二九①

―しきへ入用 二六④

うつくしきども「美しきども」 二七③

うつしごころ「移し心」 *二六⑧ 二六⑨

うつせみ「空蟬」へ人名 二八② 二八④

うつせみの「空蟬の」(枕詞) *二六③

うつつ「現」 二七① 二七⑭

うつも・る「埋もる」《動下二段》

―れへ未用 *二八⑩

―れへ入用 二六⑤

うつほ「宇津保」 二五② 二九⑭ 二七⑪

うつりが「移り香」 *二六⑦

うつ・る「移る」《動四段》

―るへ止用 *二五③

うつろ・ふ「移ろふ」《動四段》

―ふへ入用 *二七⑩

うとま・し「疎まし」《形シク活》

―しへ止用 二七⑦

―しきへ入用 二四⑩

―しけれへ已用 二二⑪

うとましげ・なり「疎まし気なり」《形

動ナリ活

- うなるへ体V 四¹⁴
 うなづ・く「頷く」cf.うちうなづく
 うのはなかきね「卯の花垣根」三¹⁰
 うはづつみ「上包み」三¹³
 うへ「上・表」三⁶ 二¹⁰ 一¹³ 三¹⁰
 *三⁹ 六⁸ *六⁸
 うへ「上」(禁中) cf.くものうへ
 うへ「上」(尊称) cf.あせちだいなごん
 のうへ・あねうへ・あふひのうへ・
 いちでうのうへ・うちのうちへ・おん
 うへ・くわんぱくのうへ・たいしや
 うのうへ・なかのうへ・にでうのう
 へ・むらさきのうへ・もとのうへ・
 ろくろすくせのうへ・るんのうへ・
 ゑもんのかみのうへ
 六¹³
 うまじ「孫」cf.むまじへ
 うま・る「生まる」cf.むまる
 うみ「海」cf.あふみのうみ
 三¹¹
 うみお・く「生み置く」《動四段》
 一きへ用V 二¹³
 う・む「生む」《動四段》
 一みへ用V 五⁹ 三⁷
 一むへ体V 六¹²
 うら「浦」一⁷ 一⁷ 一⁷ *六⁹
 一¹² *三⁹ 三¹³ 一¹²
 うらづた・ふ「浦伝ふ」《動四段》
 一ひへ用V 一⁷
 うらと・く「心解く」《動下二段》
 うらな・し「心無し」《形ク活》
 一けへ用V 三⁴ 三¹⁰
 一くへ用V *三³
 うらなみ「浦波」三² *三⁴
 うらは「裏葉」cf.ふぢのうらは
 うらみ「恨み」六⁶
 うら・む「根む」《動四段》
 一みへ用V *三⁷
 うらめ・し「恨めし」《形シク活》
 一しへ止V *五²
 一しきへ体V 二⁵ *七¹¹ 四¹⁴
 一しけれへ已V 二¹³
 うらやま・し「養まし」《形シク活》
 一しくへ用V 二⁸ 一⁷ 一⁷
 一しへ止V 三¹⁴
 一しきへ体V 二⁶ 一⁸
 一しけれへ已V 四¹²
 うりんるん「雲林院」九⁹
 うるさ・し「煩し」《形ク活》
 一しへ止V 三⁹
 一きへ体V 三⁷ 一⁴ 三¹²
 うるはしだ・つ「麗し立つ」《動四段》
 一ちへ用V 二²
 うれ・し「嬉し」《活シク活》
 一しからへ未V 七⁶
 一しくへ用V 二³ 四³ 九¹⁴ 一〇²
 四⁹ 五⁸
 一しきへ体V 一⁷ 七³ 七¹¹
 一しけれへ已V 四⁴ 五⁴ 六⁴
 六¹⁴
 うれ・ふ「憂ふ」《動下二段》
 一へへ用V 四²
 うゑもんのかみ「右衛門の督」cf.ゑもん
 のかみ
 うゑわた・す「植ゑ渡す」《動四段》
 一しへ用V 三¹⁰
 うりんるん「雲林院」cf.うりんるん
 え
 え「得」《副》一² 二¹⁰ 七⁵
 えうし(存疑。「要事」歟) 一⁴

えだ「枝」*⑩⑫

えら・ぶ「選ぶ・撰ぶ」《動四段》

―びへ用▽ ㊦④ ㊦⑥

―ぶへ用▽ ㊦⑭ ㊦⑰

えん「宴」cf. はなのえん

三⑩

えん「縁」㊦④ ㊦⑪ ㊦⑯ ㊦⑰ ㊦⑱

えん「艶」一六⑭ 三④ ㊦⑨

えんぎ「延喜」一〇⑦ 六②

えん・なり「艶なり」《形動ナリ活》

―にへ用▽ 二② 二③ 一七② 四⑩⑫

お

おい「古い」㊦①

おいおとろ・ふ「古い衰ふ」《動下二段》

―へへ用▽ 三⑦

おいくわんぱく「若い関白」四⑫⑬

おいらか・なり《形動ナリ活》

―ならへ用▽ 六⑥

おきい・づ「起き出づ」《動下二段》

―でへ用▽ 五④ 五⑥④

おく「奥」五⑤ 五⑥④

お・く「置く」《動四段》cf. うちおく・

うみおく・かきおく・さしおく・と

ころおく・とめおく・みおく

―かへ用▽ ㊦⑤ ㊦⑥

―きへ用▽ ㊦①

―くへ用▽ *㊦⑦⑧

おくふか・し「奥深し」《形ク活》

―くへ用▽ 五① 五④

おくやま「奥山」*六②⑥

おくゆか・し「奥床し」《形シク活》

―しくへ用▽ 二⑪ 六⑭

おく・る「後る」《動下二段》cf. ころ

おくる・なさけおくる

―れへ用▽ 二⑦ 二⑧ 九⑪

―るへ止▽ 三⑫

おこ・す「遣す」《動下二段》cf. みおこ

す

―せへ用▽ 四③

―するへ用▽ 三⑬⑭

おこた・る「怠る」《動四段》

―りへ用▽ 六⑧

おこなひ「行なひ」一四⑨ 四⑲⑳ 六①①

おこなひつと・む「行なひ勤む」《動下二段》

―めへ用▽ 三⑯

おさん「御座」六⑥

おしあ・つ「押し当つ」《動下二段》

―てへ用▽ 四⑤⑥ 五⑨

おしす・る「押し擦る」《動四段》

―りへ用▽ 七⑩

おしはか・る「押し量る」《動四段》

―らへ用▽ 二⑪ 二⑯⑰ 五⑱⑲ 六⑳

お・す「押す」《動四段》

―さへ用▽ 五⑤

おそれ「恐れ」一四⑧

おそろ・し「恐し」《形シク活》cf. もの

おそろし

―しくへ用▽ 四⑧

―しへ止▽ 五⑭

―しきへ用▽ 五⑬ 六⑯⑰ 七⑳

―しけれへ用▽ 一八⑧ 五⑱

おだ・し「隠し」《形シク活》

―しきへ用▽ 四⑬⑭

おちばのみや「落葉の宮」二五⑦ 元⑫

おちははか・る「怖ろ憚る」《動四段》

―りへ用▽ 二④④

お・つ「落つ」《動上二段》

—つるへ体▽ 一七^⑭ *三^⑦ *八^⑥
 おと「音」cf.かねのおと
 四^⑥ *三^⑨ 三^④ 三^⑫ 六^①
 おとつと「妹」cf.おんおとつと
 おとなき「音聞き」四九^①
 おと・す「落す」《動四段》cf.おもひお
 とす
 おど・す「威す」《動四段》
 —しへ用▽ 三^⑤
 おとと「弟・妹」三六^④ 六九^②
 おとど「大臣・大殿」cf.いちのおとど・
 うちのおとど・おほうちやまのおと
 ど・げんじのおとど・ちちおとど
 三^⑭ 三^⑨ 三^③ 二九^⑩ 四^③
 突^② 四^⑧ 四^⑩ 五^⑩ 五^⑦
 おとどたち「大臣達」一^⑭
 おとな・し「大人し」《形シク活》
 —しきへ体▽ 七^⑦
 おとり「劣り」cf.こころおとと
 おと・る「劣る」《動四段》
 —らへ未▽ *二^⑨ 一^⑪ 六^⑧
 —りへ用▽ 二^① 五^⑥ 二^④
 —るへ体▽ 六^⑤
 おどろきわた・る「驚き渡る」《動四段》

—りへ用▽ 六^⑫
 おどろ・く「驚く」《動四段》
 —くへ止▽ 六^⑪
 おどろ・ふ「衰ふ」《動下二段》cf.お
 どりふ
 —へへ未▽ 六^⑬
 おどろへ「衰へ」二^③
 おな・じ「同じ」《形シク活》
 —じへ体▽ 四^⑩ 九^④ 三^① *三^②
 *四^⑬ 五^② 五^⑭ 七^⑧ 三^④
 おなじくは「同じくは」《副》七^③
 突^①
 おなづ・く「頷く」《動四段》
 —きへ用▽ 四^⑮
 おのおの「各」《名・副》八^① 二六^⑨
 六^⑬ 六^② 八^④
 おのがじし「己がじし」二六^⑨
 おのづから「自ら」《副》六^④ 三^⑫
 六^③ 六^①
 おはしつ・く「在し着く」《動四段》
 —きへ用▽ 三^⑬
 おはしま・す「御座します」《動四段》
 —さへ未▽ 六^⑮
 —しへ用▽ 四^② 六^③ 七^⑥

—せへ已▽ 三^③ 三^⑥
 おはしま・す「御座します」《補動四段》
 —さへ未▽ 六^⑤ 六^② 六^③ 六^⑥
 —しへ用▽ 二^⑧ 八^⑬ 八^⑩ 八^⑭
 六^① 六^② 六^④ 六^① 六^②
 六^⑤
 —すへ止▽ 八^⑭ 二^④
 おは・す「御座す」《動サ変》
 —せへ未▽ 一^④
 —しへ用▽ 二九^⑫ 三^⑪ 三^① 四^④
 四^②
 —するへ体▽ 一^⑭ 三^⑫ 三^⑫
 四^②
 おは・す「御座す」《補動サ変》
 —しへ用▽ 二^⑫ 四^⑨
 —するへ体▽ 一^⑬ 二^④ 四^⑩
 おひしげ・る「生ひ茂る」《動四段》
 —るへ体▽ 三^⑬
 おびた・し「移し」《形シク活》
 —しくへ用▽ 五^⑫ 六^⑥ 六^⑨
 —しきへ体▽ 五^① 三^②
 おひのほ・る「生ひ上る」《動四段》
 —らへ未▽ 五^⑬
 おひわた・る「生ひ渡る」《動四段》

ーりへ用V 三②

お・ふ「生ふ」《動上二段》

ーひへ用V *五⑤ 七⑦ 八①

ーふるへ用V 五七⑪

おほうちやま「大内山」 *三④

おほうちやま「大内山」へ人名V 三⑪

おほうちやまのおとど「大内山の大臣」

三② 三⑫ 五⑦

おほえ「覚え」一八⑩ 五② 八④

おほえやま「大江山」 *二⑨

おほかうじ「大柑子」 五⑥

おほかがみ「大鏡」へ作品名V 六②

おほかた「大方」《副》 三⑭ 三⑩

八⑫

おほき・なり「大きなり」《形動ナリ活》

ーなるへ用V 五⑭

おほさ「多さ」 六⑥

おほ・し「多し」《形ク活》

ーからへ用V 七⑧ 六①

ーくへ用V 二⑤ 三⑪ 八⑭ 一〇④

一五⑭ 一七④ 三② 五⑨ 五⑥

五⑨ 七③ 七⑬ 五② 七③

八⑤⑦ 九③ 九⑦ 九⑪

ーかりへ止V 二① 四⑭ 六⑧

六⑦

ーかるへ用V 九② 九⑥ 一五⑥ 二⑨

五⑤ 三①

ーかへ用V 七⑪

ーかれへ已V 一七③ 七⑭ 八⑫

六②

おほ・し「覚し」《形ク活》

ーしきへ用V 五⑥

おほしい・づ「思し出づ」《動下二段》

ーでへ用V 三⑦ 三⑪

おほしい・る「思し入る」《動四段》

ーりへ用V 二② 四⑪

おほしす・つ「思し捨つ」《動下二段》

ーてへ用V 四①

おほしつづ・く「思し続く」《動下二段》

ーけへ用V 五⑨

おほしときめか・す「思し時めかす」

《動四段》

ーさへ用V 二②

おほしとち・む「思し閉ちむ」《動下二段》

段

ーめへ用V 一六⑫

おほしなぐさ・む「思し慰む」《動四段》

ーみへ用V 一六⑪

おほしのど・む「思し和む」《動下二段》

ーめへ用V 四⑭

おほしめ・す「思し召す」《動四段》

ーさへ用V 五④ 五⑤ 六⑭ 八⑥

六⑥

ーしへ用V 八⑬ 六⑪

おほしわ・ぶ「思し佗ぶ」《動上二段》

ーびへ用V 三⑫

おほ・す「仰す」《動下二段》

ーせへ用V 三⑩ 一五⑧ 一七⑭ 二七⑪

四⑨ 四⑨ 五⑪ 五② 八③

八⑨ 八⑪

おほ・す「思す」《動四段》

ーさへ用V 八① 二⑨ 一六⑪ 三①

三② 四⑥ 四⑨ 六②

ーしへ用V 二⑫ 二⑥ 六③ 八⑩

五⑭ 五⑦ 五⑬

ーすへ止V 三⑦

おほちのそう「祖父の僧」 二⑫

おほつかなさ「覚束なさ」 三③

おほどか・なり「形動ナリ活》

ーにへ用V 六①

おほど・く《動四段》

ーきへ用V 三⑬

おほにでうどの「大一条殿」 一六二②
おほにでうどののむすめ「大一条殿の

女」 一六四④

おほはらののぎやうかう「大原野の行

幸」 一六七⑩

おほみや「大宮」 一四一⑩ 一五〇⑥ 一五五④

おほみやびと「大宮人」 一五二⑩

おほやけごと「公事」 一五三⑦

おほ・ゆ「覚ゆ」《動下二段》 cf. みおほ

ゆ・ものおほゆ

一え八未▽ 一五七⑦ 一三三⑤ 一三三⑫ 一五④

三⑥ 一四⑧ 一七⑪ 一六〇⑨ 一六⑩

一五⑪ 一七① 一七⑥ 一八② 一九⑦

一九① 一九⑤

一え八用▽ 一八⑬ 一三⑤ 一三⑩ 一四⑥

三〇① 一四〇⑪ 一五⑭ 一六⑥ 一七⑧

一七④ 一七⑭ 一七① 一七⑥ 一七⑧

一八⑭ 一八⑤ 一八① 一八⑤ 一八⑨

一八⑥ 一八⑥ 一八⑪ 一九④ 一九④

一八④ 一八⑥

一ゆ八止▽ 一三四⑬ 一三⑦ 一三③ 一六⑬

一ゆる八体▽ 一九⑧ 一三③ 一三⑦

一三⑨ 一四② 一五⑩ 一九④ 一三⑨

一三⑨ 一三① 一四⑦ 一五⑥ 一六③

*一六④ 一四〇⑭ 一四⑪ 一五⑤ 一六③

一五⑫ 一八⑨ 一八⑥

一ゆれ八已▽ 一九⑨ 一〇② 一〇⑬

一四⑬ 一四⑭ 一六② 一三⑨ 一四④

一四⑭ 一三⑧ 一七② 一七⑨ 一八⑫

一八⑫

おほよそ・なり「大凡なり」《形動ナリ

活》

一に八用▽ 一六⑦

おほろづきよ「朧月夜」 一三⑬

おほろづきよのないし「朧月夜の内侍」

一三⑬

おほろづきよのないしのかみ「朧月夜の

尚侍」 一七⑫

おまへ「御前」 cf. おんまへ

一三⑬ 一六②

おもかけ「面影」 一一② *一四⑪

おもしろ・し「面白し」《形ク活》

一に八用▽ 一三⑥ 一六② 一七①

一き八体▽ 一六③

おもて「面」 cf. ひたおもて・みなみお

もて

おもてのなみ「面の浪」 一一⑩

おもは・し「思はし」《形シク活》

一しから八未▽ 一三⑬

おもはしげ・なり「思はし気なり」 cf.

ものおもはしげなり

おもはず・なり「思はずなり」《形動ナ

リ活》

一に八用▽ 一六⑬ 一七⑥ 一三④ 一五②

一六④ 一六③

一なる八体▽ 一三⑤⑧

おもひ「思ひ」 *一三⑧ 一六⑨⑦ *一五⑨

一三②

おもひあなづ・る「思ひ悔る」《動四段》

一り八用▽ 一九③

一る八体▽ 一六⑫

おもひあは・す「思ひ合はす」《動下二段》

一せよ八命▽ 一六⑫

おもひあま・る「思ひ余る」《動四段》

一り八用▽ 一三⑥

一る八体▽ 一五⑫

おもひあやま・る「思ひ誤る」《動四段》

一り八用▽ 一三⑫

おもひい・づ「思ひ出づ」《動下二段》

一で八未▽ 一三⑫ 一五⑦

一で八用▽ 一三⑨ 一六①

おもひいで「思ひ出で」 一三① 一三⑬

おもひい・る ㊦⑨

おもひい・る「思ひ入る」《動四段》

―り入用 ㊦⑩ ㊦⑪

おもひおと・す「思ひ落す」《動四段》

―し入用 ㊦⑫

おもひか・く「思ひ懸く」《動下二段》

―け入用 ㊦⑬

おもひかた・む「思ひ固む」《動下二段》

―め入用 ㊦⑭

おもひかは・す「思ひ交はず」《動四段》

―し入用 ㊦⑮ ㊦⑯

おもひくん・ず「思ひ屈す」《動サ変》

―じ入用 ㊦⑰

おもひしづ・む「思ひ沈む」《動四段》

―み入用 ㊦⑱

おもひし・む「思ひ染む」《動下二段》

―め入用 ㊦⑲

おもひし・る「思ひ知る」《動四段》

―ら入用 ㊦⑳ ㊦㉑ ㊦㉒ ㊦㉓

〓㊦㉔ ㊦㉕ ㊦㉖

―り入用 ㊦㉗ ㊦㉘

おもひす・す「思ひ過す」《動四段》

―さ入用 ㊦㉙

おもひそ・む「思ひ初む」《動下二段》

―め入用 ㊦㉚

おもひた・つ「思ひ立つ」《動四段》

―つ入用 ㊦㉛

おもひた・ゆ「思ひ絶ゆ」《動下二段》

―え入用 ㊦㉜ ㊦㉝

おもひた・る「思ひ足る」《動四段》

―ら入用 ㊦㉞ ㊦㉟

おもひつづ・く「思ひ続く」cf.うちおもひつづく

―め入用 ㊦㊱

おもひどころ「思ひ所」㊦㊱

おもひと・む「思ひ止む」《動下二段》

―め入用 ㊦㊲

おもひなび・く「思ひ靡く」《動四段》

―き入用 ㊦㊳

おもひのど・む「思ひ和む」《動下二段》

―む入用 ㊦㊴

おもひのほか「思ひの外」㊦㊴

おもひは・つ「思ひ果つ」《動下二段》

―つ入用 ㊦㊵

おもひひと「思ひ人」㊦㊵

―ら入用 ㊦㊶

おもひみだ・る「思ひ乱る」《動下二段》

―れ入用 ㊦㊷

おもひや・る「思ひ遣る」《動四段》

―ら入用 ㊦㊸ ㊦㊹ ㊦㊺

おもひよ・る「思ひ寄る」《動四段》

―り入用 ㊦㊻ ㊦㊼

おもひよわ・る「思ひ弱る」《動四段》

―る入用 ㊦㊽ ㊦㊾

おもひよ・る「思ひ寄る」《動四段》

―る入用 ㊦㊿

おもひよわ・る「思ひ弱る」《動四段》

―る入用 ㊦㊿

おも・ふ「思ふ」《動四段》cf.うちおもふ

―は入用 ㊦㊿

ふ・ものおもふ

―は入用 ㊦㊿

㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

―ひ入用 ㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

―ふ入用 ㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

㊦㊿ ㊦㊿ ㊦㊿

21 自立語の部

- おもほ・ゆ「思ほゆ」《動下二段》
—えへ未▽ *八七⑥
- おもむき「趣」 三三⑤ 六九⑪
- おもむ・く「赴く」《動四段》
—きへ用▽ 二九 一六七⑦
- おもや・す「面瘦す」《動下二段》
—せへ用▽ 二九⑭
- おや「親」 cf. さうのおや・のちのおや
三〇⑧ 五七④ *八二⑥ *八① *八①
- およびがた・し「及び難し」《形ク活》
—くへ用▽ 三〇②
- およ・ぶ「及ぶ」《動四段》 cf. みえおよぶ
—ばへ未▽ 九⑩ 三三① 三七⑭ 七⑫
- おんうへ「御上」 六六②
- おんおとうと「御妹」 六三⑥
- おんかうどの「御神殿」 四三⑤
- おんかけども「御影ども」 二⑤
- おんかた「御方」 cf. あかしのおんかた・さいぐうのおんかた・ちゅうぐうのおんかた・ひめぎみのおんかた
四⑤ 三三③
- おんかたがた「御方方」 三七② 三九⑤
- おんかへし「御返し」 八三⑦
- おんかへり「御返り」 三三② 三三⑩
- おんかへりごと「御返り事」 五〇②
- おんきそく「御気色」 四六①
- おんくだり「御下り」 三六④
- おんくらゐ「御位」 四三⑬ 六三②
- おんくるま「御車」 三六⑪ 五五④
- おんけさうぶみ「御懸想文」 四四④
- おんけしき「御気色」 三三⑧
- おんこ「御子」 一九⑨ 二六⑬ 四四⑭
- おんこごち「御心地」 九⑥
- おんこころ「御心」 cf. みこころ
三⑭ 三⑮ 三三⑬ 二⑥ 二⑦
- おんいのち「御命」 九二⑩
- おんいのり「御祈り」 六六⑥
- おんいみ「御忌み」 二九⑧ 三二⑩
- おんいらへ「御答へ」 三三⑫
- おんうたども「御歌ども」 九⑫
- おろし「下ろし」 四六①
- おろ・す「下ろす」 cf. かしらおろす・とりおろす
三⑩
- おんあたり「御辺り」 三②
- おんあはひ「御間」 四七②
- おんありさま「御有様」 八九⑥ 八九⑩
- おんいでたち「御出で立ち」 一六③
- おんいらへ「御上」 六六②
- おんおとうと「御妹」 六三⑥
- おんかうどの「御神殿」 四三⑤
- おんかけども「御影ども」 二⑤
- おんかた「御方」 cf. あかしのおんかた・さいぐうのおんかた・ちゅうぐうのおんかた・ひめぎみのおんかた
四⑤ 三三③
- おんかたがた「御方方」 三七② 三九⑤
- おんかへし「御返し」 八三⑦
- おんかへり「御返り」 三三② 三三⑩
- おんかへりごと「御返り事」 五〇②
- おんきそく「御気色」 四六①
- おんくだり「御下り」 三六④
- おんくらゐ「御位」 四三⑬ 六三②
- おんくるま「御車」 三六⑪ 五五④
- おんけさうぶみ「御懸想文」 四四④
- おんけしき「御気色」 三三⑧
- おんこ「御子」 一九⑨ 二六⑬ 四四⑭
- おんこごち「御心地」 九⑥
- おんこころ「御心」 cf. みこころ
三⑭ 三⑮ 三三⑬ 二⑥ 二⑦

おんこころがまへ「御心構へ」 三〇⑥
 おんこころがら「御心柄」 八九①①
 おんこころさし「御志」 九〇②
 おんこころもちる「御心用の」 四一①
 四七④
 おんこと「御事」 三〇⑦ 三三⑭ 三四②
 三四⑩ 三五⑪ 四四④ 四四⑫ 八九⑧
 九二⑧
 おんさいはひ「御幸ひ」 二〇⑦ 九二⑩
 おんさかつき「御盃」 cf. きんのおんさ
 かづき
 おんさかな「御肴」 九二⑥
 おんさま「御様」 二〇③ 二〇⑧ 二六②
 四八⑤
 おんさわがれ「御騒がれ」 三九⑥
 おんしつらひ「御しつらひ」 三三⑫
 おんしのびありき「御忍び歩き」 三三⑭
 おんすずり「御硯」 三七④ 三七④
 おんすまひ「御住まひ」 一六⑥ 三三④
 おんぞ「御衣」 二六⑪ 三三⑤ 八⑭
 三三⑧
 おんたびずみ「御旅住み」 二二⑦
 おんため「御為」 四九②

おんつかひ「御使ひ」 二二⑫ 四三③
 四三③ 六三③
 おんてならひども「御手習ひども」
 二九⑩
 おんとき「御時」 五⑭ 一〇⑦ 一五⑪
 四三⑩ 六〇⑤ 六二② 八七③
 おんとき・す「御伽す」《動サ変》
 一しへ用V 七⑧
 おんとく「御徳」 七④
 おんとし「御年」 五⑥
 おんなか「御仲」 二四⑨ 三九⑦
 おんにほひ「御匂ひ」 三六⑤
 おんはかまぎ「御袴着」 六六②
 おんはは「御母」 五⑬
 おんはら「御腹」 二六⑭
 おんはらから「御同胞」 二四⑨
 おんはらからたち「御同胞達」 六三③
 おんはらのきみ「御腹の君」 一八⑬
 おんびやうぶのうた「御屏風の歌」
 六二②
 おんびん「御鬢」 二九⑭
 おんふみ「御文」 三三⑬ 三三⑥ 五二⑪
 三三⑥
 おんふみども「御文ども」 三三④

おんふるまひ「御振舞ひ」 六六⑪
 おんほど「御程」 七①
 おんまへ「御前」 cf. おまへ
 三九⑨ 三九⑦
 おんみ「御身」 四三⑪ 九二⑪
 おんみき「御神酒」 六五⑤
 おんみめ「御眉目」 六〇①
 おんむこ「御婿」 二六⑦
 おんむまこ「御孫」 cf. きんたふのだい
 ながんのおんむまへ
 おんめ「御目」 九二⑩
 おんもと「御許」 三六⑩ 四二⑫ 四三③
 おんものいみ「御物忌み」 三九⑤
 おんものがたり「御物語」 cf. あまよの
 おんものがたり
 おんやしる「御社」 cf. かものしものお
 んやしる
 おんゆゑ「御故」 五②
 おんようい「御用意」 六五⑧
 おんよのなか「御世の中」 六〇⑬
 おんわさ「御業」 二六⑩ 六〇⑦

か

- か「処」 cf. ありか・すみか
 か「香」 cf. うつりが・みゃうがうのか
 五九¹⁴ 五²
- かう「香」 cf. ふだんかう
 かうい「更衣」 cf. きりつばのかうい
 かうし「格子」 cf. みかうし
 かうじ「柑子」 cf. おほかうじ
 かうじじゅうのないし「江侍従の内侍」
 六²
- かうどの「神殿」 cf. おんかうどの
 かうばい・し「香し・芳し」《形シク活》
 一しくへ用V 五²
- 一しへ止V 四²
- かえむずへ作品名V 五⁴
- かかけつく・す「揚げ尽す」《動四段》
 一しへ用V 三⁴
- かかづらひあり・く「拘ひ歩く」《動四段》
 一くへ体V 一¹³
- かがみ「鏡」 一¹¹ 三¹⁰ 三¹⁰ 五¹²
 一¹¹ 一¹¹ 一¹¹ 一¹¹
- かか・り「斯有り」《動ラ変》
 一らへ未V 五¹²
- 一るへ体V 五² 九³ 九⁸ 二¹⁰
 三¹² *三¹² 三¹² *三¹² 三¹² 四⁷ 九⁹
 六¹⁰ 六¹⁰ 六¹¹ 八¹¹ 八¹⁴
 五⁵ 五⁶
- 一れへ命V *三⁴
- かか・る「掛かる」 cf. とりかかる・よ
 りかかる
 かきあつ・む「書き集む」《動下二段》
 一めへ用V 七³
- かきあ・ふ「書き合ふ」《動四段》
 一ひへ用V 五¹²
- かきあらは・す「書き表はす」《動四段》
 一さへ未V 六¹³
- 一しへ用V 六⁷
- かきい・づ「書き出づ」《動下二段》
 一でへ用V 二²
- かきお・く「書き置く」《動四段》
 一きへ用V 八³
- かきかは・す「書き交はす」《動四段》
 一さへ未V 四⁶
- かきくら・す「書き暗す」《動四段》
 一すへ体V *三⁹
- かきさ・す「書き止す」《動四段》
 一しへ用V 三⁶
- かきしる・す「書き記す」《動四段》
 一しへ用V 八¹
- かきつく・す「書き尽す」《動四段》
 一しへ用V 九¹⁴
- かきつた・ふ「書き伝ふ」《動下二段》
 一へへ未V 一⁹ 六⁶
- かきつ・む「書き集む」《動下二段》
 一めへ用V *三² (かき)ニ書き
 ヲカケル)
- かきとど・む「書き留む」《動下二段》
 一めへ未V 七⁹
- 一むへ止V 八⁶
- 一むるへ体V 七⁵
- かきね「垣根」 cf. うのはなかきね
 *三¹⁴
- かきのもと「垣の本」 五⁷
- かきはな・る「書き離る」《動下二段》
 一れへ用V 九¹¹
- かきま・す「書き雑す」《動下二段》
 一ぜへ未V 五¹⁰
- かきもら・す「書き洩らす」《動四段》
 一しへ用V 一¹¹
- かぎり「限り」 一¹² 二¹⁴ 三¹³
 三⁴ *三⁶ *三⁷ *三⁹ 八⁴

六七〇

かぎりな・し「限り無し」《形ク活》

―くハ用▽ 三〇⑪ 四六⑦ 四九⑪ 五二⑧

八九〇 六五〇

かぎ・る「限る」《動四段》

―りハ用▽ *四六⑦

か・く「書く」《動四段》

―きハ用▽ 二〇③ 二〇④ 二九⑩ 三〇④

三七〇 三九⑪

か・く「掛く・懸く」《動下二段》 cf.い

ひかく・おもひかく・よみかく

―けハ用▽ 二二⑭ *三五⑨

―けハ用▽ 一〇⑧ 四③ 四⑧ 六⑩

九一〇 三四⑩

か・く「掻く」《動四段》

―きハ用▽ 二九⑭

かく「斯く」《副》 cf.とかく・ともかく

も

三〇④ 三二⑩ 五〇⑭ 五三④ 五六⑭

六二② 五九⑧ 八六⑤ 九一⑤

かく(存疑。「うごく」歟) 三六④

かく・す「隠す」《動四段》 cf.とりかく

す

―さハ未▽ 五九⑨

―しハ用▽ 六〇⑬ 六六⑪ 五三⑨

かくて「斯くて」《副》 七〇⑧ 一六⑩

*三三③ *三九①

かくりとう(存疑) 三二⑫

かく・る「隠る」《動下二段》

―れハ未▽ 一六④ 六〇⑫ 六二⑬

―れハ用▽ 六二③

かくれしの・ぶ「隠れ忍ぶ」《動上二段》

―びハ用▽ 三三⑩

かくれみの「隠れ鏡」△作品名▽ 五二②

かくれる・る「隠れ居る」《動上二段》

―るハ用▽ 五二④

かくろへば・む「隠ろへばむ」《動四段》

―みハ用▽ 七〇⑥

かけ「影」 cf.おもかげ・つきかげ

一〇⑪ 三〇① 三〇① 三〇③ *三〇⑤

かけ「蔭」 cf.ときはのかけ

*六一④

三三⑩

かけかけ・し「形シク活》

―しくハ用▽ 八九⑦

かけて「掛けて」《副》 *四六⑫

かけても「掛けても」《副》 八二③

かげども「影ども」 cf.おんかげども

かけはな・る「懸け離る」《動下二段》

―れハ用▽ 三〇⑧ *三九⑨ *五三⑧

かさ「笠」 cf.ひがさ

かさ・す「挿頭す」《動四段》

―しハ用▽ *三三⑩

かさね「襲」 cf.ひとへがさね

かさみ「汗衫」 三九④ 五九⑤

かざり「飾り」 三〇③

かしがま・し「冪し」《形シク活》

―しきハ体▽ 六二⑭

かしづ・く「傳く」《動四段》

―きハ用▽ 五二④

かしはぎ「柏木」△卷名▽

一七④

かしはぎのゑもんのかみ「柏木の右衛門

の督」 三三⑨ 三三⑤

かしら「頭」 四六④ 五九⑨

かしら「髷髷」 五九⑨

かしらおろ・す「頭おろす」《動四段》

―しハ用▽ 六七⑦

かしらのゆき「頭の雪」 一一⑩

かず「数」 cf.うたかず・ひとかず

三〇③ 五七⑨ 七〇⑬

かすか・なり「幽かなり」《形動ナリ活》

*六三〇

―しけれへ已▽ 語④ 四四 六六

かなしき「悲しき」一④

かならず「必ず」(副) 二三 五〇③

六〇④ 六九⑩ 七〇① 八〇⑧

かぬ「兼ね」(接尾) cf.せきかぬ

かね「鐘」 語⑥

かねて「予て」(副) 五七⑦

かねのおと「鐘の音」 *三三⑥

かねのはしら「金銀の柱」 三⑥

かの「彼の」(連) 三三⑨ 三三⑩ 三三⑪

五⑤ 五⑩ 六三③ 六三⑧ 七二② 七九⑨

かは「川」 cf.ありすがは・すみだがは

かばかり「斯許」(副) 二⑤ 七⑥ 九②

二〇⑨ 三二⑧ 三二⑨ 三六⑨ 八二⑬

かはきり「河霧」へ作品名▽

三⑤

がはし「接尾」 cf.みだりがはし

かは・す「交はす」(動四段) cf.おもひ

かはす・かきかはす・なきかはす

―しへ用▽ 三二⑫ 六六①

かはなみ「河浪」 cf.かものはなみ

かばね「屍・尸」 七⑤⑥

かはほり「蝙蝠」 cf.とりなきしまのか

はほり

かはり「代はり」 七⑩

かはる「変はる」(動四段) cf.さまか

はる・なりかはる・やうかはる

―らへ未▽ 語⑤

―りへ用▽ 六七②

―るへ体▽ 一⑤ 二⑥ 六七②

かひ「効」 *六三③

かひな・し「甲斐無し」(形ク活) cf.

いふかひなし

―かりへ用▽ *三三⑬

―しへ止▽ 五⑦

―きへ体▽ *語⑦

か・ふ「変ふ」 cf.さまかふ

か・ふ「代ふ・替ふ」(動下二段) cf.き

かふ

―へへ用▽ *三〇⑩ *六六⑦ 六九⑭

―ふへ止▽ 三五⑪ 二六⑪ 四二⑪

かへさ「帰さ」 六⑩

かへし「返し」 cf.おんかへし

六⑩ 六四④

かへ・す「返す」(動四段) かへすがへす

―しへ用▽ 三⑬

かへすがへす「返す返す」(副) 九⑨

二〇⑤ 二④ 一八⑧ 三三⑪ 三三⑬

三三⑬ 三三⑮ 三三⑯ 四七⑬

五〇④ 五⑫ 五⑭ 六⑥ 六⑫

三⑩ 三⑬ 八④ 八⑤ 九⑫

かへり「返り」 cf.おんかへり

かへりあ・ふ「返り逢ふ」(動四段)

―ひへ用▽ 四七⑦

かへり・く「帰り来」(動力変)

―こへ未▽ *五五⑭

かへりごと「返り事」 cf.おんかへりご

と 三⑪ 四③ 四⑤ 六① 七④

かへる「帰る・返る」(動四段) cf.き

えかへる・こきかへる・しにかへ

る・たちかへる・なりかへる・よみ

がえる・をちかへる

―りへ用▽ 語⑥ 四⑩

―るへ体▽ 三⑭ *六④

かほ「顔」 cf.つきのかほ・ところえが

ほなり・ともなひがほなり・ならし

がほなり・をりしりがほなり

四⑬ 四⑮ 六⑨

かほる「薫る」(動四段)

- ーる△体▽ 三〇七
 かほるたいしゅう「蕙大将」 三〇⑧
 三六⑦ 三六⑫ 三四④ 三六② 三〇七
 かみ「上」 cf. そのかみ
 かみ「簪」 cf. さゑもんのかみ・ないし
 のかみ・ゑもんのかみ
 かみ「神」 cf. ただすのかみ
 三〇⑥
 かみ「紙」 三〇④
 かみ「髪」 cf. くるかみ・つくもがみ
 一④ 五四⑭ 五五⑤
 かみさ・ぶ「神さぶ」《動上二段》
 ーび△用▽ 四⑪ 三六④ 五四② 八六①
 かみしやうじ「紙障子」 四①
 かも「賀茂」△⑬
 かものかはなみ「賀茂の河浪」 *六五①
 かもものしものおんやしる「賀茂の下の御
 社」 三〇⑥
 かものだいみやうじん「賀茂の大明神」
 三〇③
 かやうげんのきさき「河陽懸の后」
 三〇⑪ 三六⑤ 三六⑨
 かやう・なり「斯様なり」《形動ナリ活》
 かやう△語幹▽ 八⑥ 二五⑧ 三三⑬
 三〇⑥ 三〇⑩ 三三③ 三五⑧ 三五⑨
 ーなら△未▽ 三二② 三五⑫
 ーに△用▽ 二二⑪ 三六⑭ 三六⑮
 ーなる△体▽ 四②
 かよ・ふ「通ふ」《動四段》
 ーひ△用▽ 三三④
 ーへ△已▽ *三〇⑧
 からぎぬ「唐衣」 六②
 からなでしこ「唐撫子」 三六①
 かり「雁」 三三⑫
 かりそめ「仮初め」 *三三⑭
 かりにも「仮にも」《副》 二⑨
 かる「借る」《動四段》
 ーり△用▽ *三九⑩
 がる《接尾》 cf. あさましがる
 かるかや「刈萱」 三三⑥
 かれ「彼」 三三① 三三⑤
 かれ「枯れ」 cf. すゑがれ
 かがれがれ・なり「離れ離れなり」《形動
 ナリ活》
 ーに△用▽ 四⑭
 かわ・く「乾く」《動四段》
 ーか△未▽ *六二②
 ーく△体▽ 一⑦
 かんざし「簪」 cf. たまのかんざし
 かんだう「勘当」 四七⑦
 かんだちめ「上達部」 cf. わかかんだち
 め
 き
 き「木」 cf. わかぎ
 きえう・す「消え失す」《動下二段》
 ーせ△用▽ 三⑥
 きえかへる「消え返る」《動四段》
 ーり△用▽ 四七⑥
 きえのこる「消え残る」《動四段》
 ーる△体▽ 四七⑪
 きか・す「聞かす」《動下二段》 cf. いひ
 きかす
 ーせ△未▽ 五三⑪
 きか・ふ「着替ふ」《動下二段》
 ーへ△用▽ 三四⑥
 きき「聞き」 cf. おとぎき・ひとぎき
 ききあらは・す「聞き顕はす」《動四段》
 ーし△用▽ 四三⑪
 ききし・る「聞き知る」《動四段》
 ーら△未▽ 三六⑧
 ききつ・く「聞き付く」《動下二段》

一けへ未下 三二②

一けへ用下 三三⑧ 三三⑦ 三三④ 三三⑩

ききつた・ふ「聞き伝ふ」《動下二段》

一へへ用下 六六⑬

ききつ・む「聞き詰む」《動下二段》

一めへ用下 五⑥ 五⑧

ききつころ「聞き所」 五④ 八七⑩ 九五⑭

ききふ・す「聞き臥す」《動四段》

一しへ用下 七⑬ 八七⑪ 九五⑫

まく「菊」 三三⑫ 六三⑬ 六三②

き・く「聞く」《動四段》 cf. うちきく・

たちきく・つたへきく・みきく

一かへ未下 五⑧ 六⑭ 四⑯⑥ 六六④

一きへ用下 二⑬ 二五⑤ 二七⑩ 三三⑧

四六④ 四六⑬ 七⑯⑥ 八⑰⑬ 八⑱

一くへ体下 二⑧ 六二⑧ 八二⑫

六六⑭

きくのはな「菊の花」 六四③

きこえあは・す「聞こえ合はす」《動下

二段》

一せへ用下 三三⑩

きこえあらは・す「聞こえ表はす」《動

四段》

一しへ用下 六六⑩

きこえい・づ「聞こえ出づ」《動下二段》

一でへ未下 八九⑦

きこえさ・す「聞こえさす」《動下二段》

一するへ体下 九六⑥

きこえな・す「聞こえ為す」《動四段》

一しへ用下 三三⑦

きこえにく・し「聞こえ惜し」《形ク活》

一くへ用下 四④ 四⑨

きこ・ゆ「聞こゆ」《動下二段》

一えへ未下 六①
一えへ用下 七⑤ 一二⑫ 一九⑫ 三〇④
三〇⑬ 三三③ 四二⑥ 四三⑫ 五三⑩
六〇③ 七⑩ 七④ 七⑬ 七⑧
八七④ 九⑤ 九⑥ 九① 九⑤ 九⑭
一ゆへ止下 四⑤ 九⑧
一ゆるへ体下 三三④ 三六⑫
一ゆれへ已下 五⑦ 四七⑩
きこ・ゆ「聞こゆ」《補動下二段》 cf. み
おくりきこえ
一えへ未下 五④ 七② 一五⑦ 三三⑬
一えへ用下 一九⑩ 三三⑤ 八⑭⑬ 八九⑦
一ゆるへ体下 八九⑨
一ゆれへ已下 四七⑦

きさいのみや「後の宮」 五〇⑦

きさき「后」 cf. かやうけんのきさき

三三⑬ 三三⑩ 三三④ 六⑥ 九④

きしかた「来し方」 一三②

きしろふ「ふ」《動四段》

一へへ未下 三三⑨

きそく「気色」 cf. おんきそく

六⑤

きたのかた「北の方」 cf. だいなごんの

きたのかた・まめびとのたいしやう

のきたのかた

三〇③ 三〇④ 三三⑧ 六③ 六九①

七〇④ 七⑥

きたのまんどころ「北の政所」 五⑬

六九⑤

きたな・し「汚し」《形ク活》

一しへ止下 五⑩

きと《副》 三三⑬

きぬ「衣」 cf. からぎぬ・すずしのきぬ

八⑧

きは「際」 四④

きは・む「極む」《動下二段》

一めへ未下 九⑩

一めへ用下 二⑦

きはやか・なり「際やかなり」《形動ナリ活》

―に八用▽ 二⑩

きぶね「貴船」 八③

きみ「君」 cf.あかしのきみ・あねぎみ

・うきみねのきみ・おんはらのきみ

・ごのきみ・さいしやうのきみ・じ

じゅうのきみ・しのきみ・しんさい

しやうのきみ・すもりのきみ・たい

のきみ・たまかづらのきみ・ちゅう

じやうのきみ・ちゅうなごんのきみ

・てならひのきみ・なかのきみ・ひ

めぎみ・ふちのうらはのきみ・やし

なひぎみ・よしののきみ・わかぎみ

・をんなぎみ

一三⑥ 二六⑧ *三⑨ *三七⑦ 四⑫

*四④ *四九⑨ *五⑧ *六② 八⑬

八九⑥ 八九⑩ *九⑭

きやう「京」 二⑥ 一六⑥ 一六⑦

きやう「絳」 cf.きやうしきやう・なんま

いきやう・ほげきやう

一七⑪ 一三⑬ 一三⑭ 一四①

きやうかう「行幸」 cf.おほはらのぎや

うかう

きやうだい「鏡台」 二九⑬

きやうぶくろ「絳袋」 六⑩

き・ゆ「消ゆ」《動下二段》

―え八未▽ *三⑩

―え八用▽ *三⑩ 六⑫

きよかう「御幸」 cf.みゆき

きよくわす八作品名▽ 七⑪

きよげ・なり「清気なり」《形動ナリ活》

―なる八体▽ 九①

きよ・し「清し」《形ク活》

―き八体▽ 六②

きよら・なり「清らなり」《形動ナリ活》

―なる八体▽ 三①

きら・ふ「嫌ふ」《動四段》

―は八未▽ 八⑤ 八⑦

きらめきたる・る「煌めき渡る」《動四段》

―り八用▽ 六⑭

きり「霧」 *三⑩

きりた・つ「霧立つ」《動四段》

―つ八体▽ 三⑨

きりつば「桐壺」 三⑪

きりつばのかうい「桐壺の更衣」 一七⑩

三⑬

き・る「切る」《動四段》

―り八用▽ 六④

き・る「着る」《動上二段》

き八用▽ 四⑪ *三② 五⑩ 六②

八⑧ 八⑤ 九⑤

きる八体▽ *六⑧

きんえふしふ「金葉集」 五⑬

きんぎよくしふ「金玉集」 五⑫

きんただのべん「公忠の弁」 二⑫

きんたち「公達」 三②

きんたふ「公任」 cf.しでうだいなごん

きんたふ

きんたふのだいなごんのおんむまじ「公

任の大納言の御孫」 九⑭

きんのおんさかづき「金の御盃」 九⑮

きんみつ「公光」 cf.さゑもんのかみき

んみつ

きんのね「琴の音」 三⑪

く

く「来」《動力変》 cf.いでく・かへりく

・たづねく・もてく

こ八未▽ 二①

き八用▽ *三⑩

ぐ「具」cf.じまぐ

くくむ「包む」cf.ひきくくむ

くぐわつとをか「九月十日」 三〇

くさ「草」cf.うきくさ・なつくさ・に

はくさ・もしほぐさ

三〇

くさのとざし「草の肩」 三三〇

くさのまくら「草の枕」 三三〇

くさむら「草叢」 一〇

ぐ・す「具す」《動サ変》cf.のりぐす

―せへ未↓ 三六

―しへ用↓ 三三 八二

くだ・く「砕く」《動四段》

―きへ用↓ 四八

くた・す「腐す」cf.いひくたす

くだり「下り」cf.おんくだり・つくし

くだり

くだり「行」cf.ひとくだり

くだ・る「下る」《動四段》cf.あまくだ

る・しなくだる

―れへ已↓ 三三

くち「口」cf.くちぐち

六九

くちぐち「口」 三三 三六 三九 四二 四五

七〇

くちずさ・ぶ「口遊ぶ」《動四段》

―ぶへ体↓ 七〇

くちずさ・む「口遊ぶ」《動四段》

―みへ用↓ 二一 三六

くちな・る「口馴る」《動下二段》

―れへ用↓ 六〇

くちを・し「口惜し」《形シク活》

―しからへ未↓ 四八

―しくへ用↓ 二四 六〇 九二

―しきへ体↓ 三三 四三 五三

五二 五七 六三 六八

―しかるへ体↓ 七三

―しけれへ已↓ 二五 三七 四一

五三 五九 六五 六九

六四 七〇 七六 八二

くちをしさ「口惜しき」 六八 七六

く・つ「朽つ」《動上二段》

―ちへ未↓ 三三

―ちへ用↓ 三六

くづ「屑」cf.みくづ

くづ・す「崩す」《動四段》

―しへ用↓ 四三

くづのしたば「葛の下葉」 五二

くづ・る「崩る」《動下二段》

―れへ用↓ 三六

くでうどのさだいしゅう「九条殿の左

大将」 七一

くどく「功德」 三三 三六

くにもと「国基」 三三

くび「首」 四三 六〇

ぐまし《接尾》cf.なみだぐまし

くまな・し「隈無し」《形ク活》

―きへ体↓ 六二 三三

ぐむ《接尾》cf.うちなみだぐむ

くも「雲」cf.むらぐも

八二 三六 三九 三三

くもでへ人名↓ 三三

くものうへ「雲の上」 六二

くも・る「曇る」cf.うちくもる

くもる「雲井」 三九 (「宮中」ヲカケ

ル) 三三 三六 三七 三九

くやう「供養」cf.いっぽんぎやうくや

う

くや・し「悔し」《形シク活》

―しくへ用↓ 三三

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》

―ちへ用↓ 四一

くらうどのせうしやう「蔵人の少将」

六〇七

くらし「暮らし」cf. ひぐらし

くらし「暗し」《形ク活》

—からへ未▽ 五八〇

—うへ音便▽ 六一〇

—きへ体▽ 八〇九 九一〇 *八〇八 *八〇三

くら・す「暗す」cf. かきくらす

くら・す「暮らす」《動四段》

—すへ体▽ 七〇一

くらへ「較へ」*三三〇

くらゐ「位」cf. おんくらゐ

五〇四 六〇三 四三〇 八〇五

くりごと「繰り言」八八六

く・る「暮る」《動下二段》

—れへ用▽ 三〇八 七〇三

—るるへ体▽ *三三六

くる・し「苦し」cf. ころぐるし・そ

ひぐるし・みぐるし

くるしげ・なり「苦しげなり」cf. こ

ろぐるしげなり

くるひ「狂ひ」cf. ゑひぐるひ

くるま「車」cf. おんくるま

三〇三 六〇七 六〇八

くれ「暗れ」cf. あげくれ

くれがた「暮れ方」一三〇

くれたけ「呉竹」三〇〇

くれなる「紅」*三三六

くるかみ「黒髪」*三三六

くるし「黒し」《形ク活》

—くへ用▽ 三〇六 六七四

くわうかもんゐん「皇嘉門院」三〇三

くわうごうぐう「皇后宮」八〇五 八九四

六〇一

くわうたいごうぐう「皇太后宮」cf. び

はどののくわうたいごうぐう・をの

のくわうたいごうぐう

六〇八 八九〇

くわほう「果報」六〇六 八〇一

くわん「巻」cf. ろくじつくわん

くわんげん「管絃」八六一

くわんぱく「関白」cf. おいくわんぱく・

なかのくわんぱく・わかくわんぱく

五〇六 五〇七

くわんぱくどの「関白殿」cf. なかのく

わんぱくどの

くわんぱくのうへ「関白の上」六〇七

六〇一 六〇四 六〇七 六〇八 八二〇

くわんぱくのたいしやう「関白の大将」

cf. ぜんくわんぱくのたいしやう

くわんびやうのほふわう「寛平の法皇」

八五〇

くん・ず「屈す」《動サ変》cf. おもひく

んず

—じへ用▽ 二五〇

け

け「毛」cf. みのけ

け「怪」cf. もののけ

六〇一

け「故」八五〇

け「下」cf. じゃうげ

げ「氣」《接尾》cf. いみじげなり・うと

ましげなり・きよげなり・こちよ

げなり・ころぐるしげなり・こ

ろぼそげなり・つつましげなり・て

つつげなり・なげなり・ねたげなり

・はかなげなり・はらだたしげなり

・ひとわるげなり・まめまめしげな

り・みぐるしげなり・むつかしげな

り・めでたげなり・ものおもはしげ

なり・ゆかしげなり・らうたげなり

・をしげなり

けさ「今朝」六〇 *三五③

けさ「袈裟」八四④

けさうぶみ「懸想文」cf. おんけさうぶみ

げざやか・なり《形動ナリ活》

―に八用▽ 六三①

けしからぬ「怪しからぬ」《連》

三四⑥ 二六⑨ 六〇⑧

けしき「気色」cf. おんけしき

三三⑭ *三五⑥ 四九⑨ 七二⑨

けたい・す「懈怠す」《動サ変》

―し八用▽ 六⑨

けちか・し「気近し」《形ク活》

―く八用▽ 三三③

げに「実に」《副》五〇⑩ 九二② 一五⑧

五① 五九⑭ 七三⑩ 九三⑭

けふ「今日」*三三⑩⑬ 三三⑭ 三三⑮ *四六⑦

五〇② 五〇③ *三五⑨

けぶた・し「煙たし」《形ク活》

―き八用▽ 四①

けぶり「煙」四① *三六⑧ *五九⑬ *三三⑥

*三三⑪ *三三⑫

けんきうしちねん「建久七年」五⑪

げんじ「源氏」八人名▽ cf. ひかるげんじ

二五⑫ 一七⑬ 一八④ 三六⑥ 三〇②

元⑭ 四〇① 三三⑨

げんじ「源氏」八作品名▽ 二三四⑭ 一四⑫

二五① 四〇⑪ 五九⑭ 七二② 八八⑫

げんじのおとど「源氏の大匠」一九⑩

三三⑭ 三三⑧

げんじのみや「源氏の宮」三三① 三三③

げんじのあん「源氏の院」三九⑦

げんじゅう「玄上」八七③

げんそむ八作品名▽ 五⑦

げんてう・なり「顕証なり」《形動ナリ活》

―なり八止▽ 四三⑤

げんのちゅうじゅう「源の中将」六⑬

げんのないしのすけ「源の典侍」三三⑤

こ

こ「子」cf. おんこ・ひがきのこ・みこ

一八⑪ 五九⑨ 六〇⑫ 六三⑦ 六五⑤

六九② 六九⑤ 八二⑤ *六三⑫ *六三⑬

*八四① *八四④

こ「此」《代》cf. この

*三五⑤

こ「籠」cf. はなこ

こうばいのだいなごん「紅梅の大納言」

三④

こうらん「勾欄」五〇⑩ 三三①

こえわぶ「越え佐ぶ」《動上二段》

―び八用▽ *三五⑭

こかは「粉河」四三③

こぎかへ・る「漕ぎ返る」《動四段》

―り八用▽ *四三⑬

こきん「古今」七二⑫ 七三⑨

こきんしふ「古今集」七三⑤

こ・ぐ「漕ぐ」《動四段》

―ぐ八用▽ 元⑫

こぐわつとをか「五月十日」二⑪

こけ「苔」*三三⑩ 八①

こけのたもと「苔の根」一⑦

ここち「心地」cf. おんここち

三⑤ 三③ 九⑫ 九⑭ 一〇② 二③

一五③ 三三① 三三⑨ 三三⑩ *四六⑭

四① 四⑪ 七⑫ 七⑬ 八④

ここちよげ・なり「心地好げなり」《形動ナリ活》

―に八用▽ 三⑬

ここのへ「九重」六②

「こころにくし」「心憎し」《形ク活》

―からへ未▽ 二〇

―くへ用▽ 四〇 二二 一七 一九

三六 六八 六五 六六

六六 八六 八三 六三

三二 三三

―きへ体▽ 一九 二四 二七 五〇

―けれへ已▽ 六六

「こころのいろ」「心の色」 九三

「こころのうち」「心の内」 二〇 四一

「こころのさま」「心の様」 二五

「こころのど・む」「心和む」《動下二段》

―めへ用▽ 三〇

「こころのほど」「心の程」 六七 八三

六七 八〇

「こころばせ」「心ばせ」 二四

「こころはづか・し」「心恥し」《形シク活》

―しへ止▽ 四九

「こころばへ」「心延へ」 一九 二〇

二〇

「こころふかき」「心深き」 三三

「こころふか・し」「心深し」《形ク活》

―くへ用▽ 二二 二〇 四四 五五

「こころほそげ・なり」「心細気なり」《形

動ナリ活》

―なりへ用▽ 六一

「こころほそ・し」「心細し」《形ク形》

―くへ用▽ 三三 *三九 六四

―きへ体▽ 八七

「こころまさり・す」「心勝りす」《動サ変》

―すれへ已▽ 三三

「こころもちる」「心用ゐる」cf.おんこころ

もちる 一七 一九 四一 五三 六九

「こころやす・し」「心安し」《形ク活》

―くへ用▽ 六一

「こころやま・し」「心疾し」《形シク活》

―しくへ用▽ 三六

―しきへ体▽ 三九

―しけれへ已▽ 六一 六二

「こころゆ・く」「心行く」《動四段》

―きへ用▽ 二七 二八

「こころよ・し」「心良し」《形ク活》

―からへ未▽ 三九

「こころよせ」「心寄せ」 三三

「こ・し」「濃し」《形ク活》

―くへ用▽ 三九

こしうや「腰札」 六六

こしきぶのないし「小式部の内侍」

二二 二〇 四四

こしふる「後拾遺」 五八 八〇

こじま「小嶋」へ巻名▽ 一七

こしらかはるん「後白河院」 六三

こしをれ「腰折れ」 七二

こじんのこころ「古人の心」 三〇

こすゑども「梢ども」 三三

こせ「後世」cf.のちのよ

一三 一四

こせむずへ作品名▽ 七五

こせん「後撰」 七〇

こだい「古代」 六〇

こだち「木立」 三三 三六

こた・ふ「答ふ」《動下二段》

―へよへ命▽ *四三

こたま「木霊」 三九

こちた・し「言痛し」《形ク活》

―くへ用▽ 九二

こつ《接尾》cf.ひとりごと

こてふ「胡蝶」へ巻名▽ 一七

こと「言」cf.くりごと・つひやまごと・ひとこと

こと「事」おほやげごと・おんこと
かへりごと・さらごと・なにごと・ふるごと

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

こと「毎」《接尾》おきごと・たびごと
と・もじごと・ものごと・よごと

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ことすくな・なり「言少ななり」《形動
ナリ活》
―にへ用√ ㉑①

ことす・む《存疑。「ことそぐ」歟》
―みへ用√ ㉑⑦
ことそ・ぐ「事削ぐ」《動四段》
―ぎへ用√ ㉑⑫
ことども「事ども」おそぞろごとども
㉑⑤ ㉑④ ㉑③ ㉑② ㉑① ㉑⑰ ㉑⑱ ㉑⑲ ㉑⑳ ㉑㉑ ㉑㉒ ㉑㉓ ㉑㉔ ㉑㉕ ㉑㉖ ㉑㉗ ㉑㉘ ㉑㉙ ㉑㉚ ㉑㉛ ㉑㉜ ㉑㉝ ㉑㉞ ㉑㉟ ㉑㊱ ㉑㊲ ㉑㊳ ㉑㊴ ㉑㊵ ㉑㊶ ㉑㊷ ㉑㊸ ㉑㊹ ㉑㊺ ㉑㊻ ㉑㊼ ㉑㊽ ㉑㊾ ㉑㊿

こと・なり「異なり」おさまことなり
ことのほか・なり「殊の外なり」《形動
ナリ活》
―にへ用√ ㉑⑤ ㉑⑥
―なるへ体√ ㉑④

ことと・ふ「言問ふ」《動四段》
―ひへ用√ ㉑①
こと・なり「異なり」おきごと・たびごと
と・もじごと・ものごと・よごと

ことと・し「事事し」《形シク活》
ことと・し「異心」
ことと・し「異心」

ことと・し「言葉」おひここと
ことと・し「言葉」おひここと
ことと・し「言葉」おひここと
ことと・し「言葉」おひここと

三〇③ 五九③ 六〇② 六〇⑥ 六二①①
 六三⑩ 六四⑩ 六六⑩ 六七⑨ 六八⑧
 七④ 七⑦ 七④
 ことばづつき「言葉統き」一五⑫ 五七⑭
 こども「子供」五三③ 五八⑤
 ことわり・なり「理なり」《形動ナリ活》
 ことわりハ語幹▽ 八⑫ 四九⑬ 六〇①
 一にハ用▽ 二⑬ 三六⑬
 一なりハ止▽ 一六⑬ 二四⑬ 四三①
 四八⑧ 六五⑨ 七⑦ 九三③ 九三⑥
 六⑥ 六⑫
 こなたさま「此方様」二⑩ 三① 六⑬
 この「此の」《連》五⑨ 七⑪ 八⑪
 一〇⑧ 二② 二⑬ 二⑬ 二四⑫
 一五⑬ 一六⑫ 一七⑩ 一七⑬ 三〇①
 四⑫ 四八⑦ 四九⑬ 五⑭ 五⑦
 五④ 六③ 六⑤ 六五⑩ 六六⑪
 七⑦ 七⑧ 七⑪ 八⑧
 このきみ「五の君」五③
 このごろ「此の頃」五九⑪ 七③
 このした「木の下」*三②「こへ木」▽
 ニ「子」ヨカケル
 この・む「好む」《動四段》
 一まへ未▽ 六⑪

一みハ用▽ 六⑭ 七⑦
 一むハ体▽ 六⑧
 このも・し「好もし」《形シク活》
 一しくハ用▽ 一八⑫ 一九⑧
 一しハ止▽ 一①
 一しきハ体▽ 一八⑨ 一九⑫ 三〇⑩
 六⑥
 一しけれハ已▽ 六三③
 このよ「此の世」二⑦ 八① 八④ 八⑬
 九⑧ 一三② 一四⑫ 二〇⑦ *五⑬
 五⑤ 七⑨ 八②
 このゑのゐん「近衛の院」五⑭
 こひい・つ「乞ひ出づ」《動下二段》
 一でハ用▽ 三④
 こひ・し「恋し」《形シク活》
 一しくハ用▽ 三⑤
 一しかりハ用▽ 八⑨
 一しハ止▽ 七⑦
 一しきハ体▽ 一⑥ 九⑥ *三⑩ *三⑥
 一しけれハ已▽ *五⑬
 こひしき「恋しき」*八⑤③
 こひわ・ぶ「恋ひ仵ぶ」《動上二段》
 一びハ用▽ *三④
 こ・ふ「請ふ」cf. まうしこふ

こ・ふ「恋ふ」《動上二段》
 一ひハ未▽ 九②④
 一ひハ用▽ 三②
 こほ・る「氷る」cf. しみこほる
 こほ・る「零る」《動下二段》
 一れハ未▽ 二⑩
 一れハ用▽ 六⑧
 こま「高麗」八⑩
 こまか・なり「細かなり」《形動ナリ活》
 一にハ用▽ 三⑭ 高⑥ 高⑧ 八⑧⑧
 こまこまと「細細と」《副》九⑬
 こまち「小町」cf. をのこまち
 こまむかへ「駒迎へ」ハ作品名▽ 六九⑧
 こまやか・なり「細やかなり」《形動ナリ活》
 一にハ用▽ 三⑬
 こ・む「籠む」cf. とりこむ
 こめか・し「子めかし」《形シク活》
 一しくハ用▽ 三⑬
 こものがたり「古物語」六五⑨
 こもり・ある「籠り居る」《動上一段》
 一るハ未▽ 六①
 一るハ用▽ 六⑦ 八⑬
 こも・る「籠る」《動四段》cf. たえこも

る

ーらへ未▽ 五三⑭

ーりへ用▽ 一五⑬ 三三⑩ 六六⑤ 六三⑧

こ・ゆ「越ゆ」《動下二段》 五、ふまきこゆ

ーえへ未▽ *三三③

ーゆるへ体▽ *三三⑨

こよな・し「形ク活」

ーくへ用▽ 二七⑦

こよひ「今宵」 七⑧ 一五⑧ *五三⑧

「ごらんじあは・す」御覽じ合はす」《動

下二段》

ーせへ用▽ 五三⑬

「ごらん・ず」御覽ず」《動サ変》

ーぜへ未▽ 九二⑥

ーじへ用▽ 五三④ 五三① 九二⑤ 九三③

ーずるへ体▽ 五三①

ーぜよへ命▽ 七① 五三⑤ 五三①①

突②

「こりすまて」懲りすまて」《副》 *六六②

「これ」此」《代》「ニ」須磨」ヲカケル」

一三⑬ 一四② 三三③ 三七⑬ 五三④

四〇⑤ 四二③ 四三⑬ 四四④ *五三⑭

*五三⑬ 六〇⑤ 六〇⑧ 六〇⑩ 六〇⑭

六② 七⑫ 七⑩ 七⑥ 八⑭

七⑦ 九⑤ 五③

これみつ「権光」へ人名▽ 五三⑪ 五三⑭

これひらのちゅうじゅう「伊衡の中將」

突③

ころ「頃」 五、このころ・としごろ・ひごろ

六④ *三三⑨ 五三⑬ 七⑩ *五三⑫

ころ・す「殺す」 五、にらみころす

ころも「衣」 五、うすすみころも・かす

みのころも・さよのころも

一④ *三三⑨ 五三⑭

「こゑ」声」 五、こゑこゑ・ふたこゑ・を

んなこゑ

一四③ 一五④ 三三⑧ 五三⑧ 五三⑧

「こゑこゑ」声声」 五三⑭

「ごんたいなごん」権大納言」 六⑥

「ごんちゅうなごん」権中納言」 五三⑫

突⑭

わ

さ《接尾》 五、いろこのめかしさ・おほ

さ・おぼつかなさ・かなしさ・かへ

さ・くちをじさ・ころろふかさ・こ

ひしき・つらさ・にくさ・みまほし

さ・ものはかなさ・よくふかさ

さ「然」《副》 五、さこそ・さして・さし

も・させる・なて・なは・さばかり

・さほど・さまで・さあ・さやう

一三⑪ 一六⑦ 五三⑥ 五三①

「さいかく」才覚」 一五① 五三⑦

「さいぐう」齋宮」 五、せんざぐう

三三④ 五三⑦

「さいぐうのおんかた」齋宮の御方」

突⑥

「さいぐうのひめぎみ」齋宮の姫君」

六六④

「さいしやう」宰相」 五、みやのさしや

う

「さいしやうくわうぬん」最勝光院」 二②

「さいしやうのみきみ」宰相の君」 五、しん

さしやうのみきみ

六二⑥

さいしやうのちゅうじやう「宰相の中

将」^{四〇③} ^{三〇①} ^{三〇②} ^{六六④}

さい② ^{六七⑥}

さいだいいち「最第一」cf.ほっけさい

だいいち

さいな・む「苛む」《動四段》

一み入用 ^{四六③}

一め入已 ^{五七④}

さいはひ「幸ひ」cf.おんさいはひ・さ

ちさいはひ

六三⑩ 六九③

さいるん「齋院」cf.ださいるん

四〇⑤

さうさう・し《形シク活》

一しき入体 ^{六九①}

一しけれ入已 ^{三三②} ^{六六④}

さうし「草子」cf.まくらのさうし

さうしきやう「冊子経」^{六〇⑩}

さうぞく「装束」cf.しやうぞく

三九④

さうのおや「左右の親」^{二九⑭}

さうのこと「箏の琴」cf.しやうのこと

さえ「才」^{四三⑦}

さかき「賢木」入卷名 ^{一六③}

さかさか・し「賢賢し」《形シク活》

一しく入用 ^{三〇⑦}

さかさま・なり「逆様なり」《形動ナリ

活》

一に入用 ^{三三②}

さかしら・なり「賢しらなり」《形動ナ

リ活》

一に入用 ^{三三②}

さかづき「盃」cf.きんのおんさかづき

さかな「肴」cf.おんさかな

さかり「盛り」cf.はなざかり

△⑥

さかり・なり「盛りなり」《形動ナリ活》

さかり入語幹 ^{三三⑩}

一に入用 ^{三三⑦} ^{八一①}

さか・る「逆る」《動四段》

一ら入未 ^{三三⑦}

さき「先」cf.ゆくさき

三三⑩

さきだ・つ「先立つ」《動四段》

一た入未 ^{三六⑩}

一つ入体 ^{六二⑥}

さきのよ「前の世」^{三三①} ^{三三①}

さ・く「咲く」《動四段》

一か入未 ^{三三⑩}

一く入体 ^{三三⑩}

さくら「桜」^{三三⑩} ^{二七⑦} ^{三三⑦}

*三三⑩

さこそ《副》^{三三⑩} ^{六九⑩}

さころも《狭衣》入作品名 ^{四〇⑩}

三三② ^{七五⑥} ^{七五④}

ささめ・く cf.うちささめく

さしい・つ「射し出づ」《動下二段》

一で入用 ^{三三⑩}

さしいらへ「差し答へ」^{八七⑩}

さしお・く「差し置く」《動四段》

一き入用 ^{六六③}

さじき「棧敷」^{六六③}

さして《副》^{四〇⑩} ^{四〇⑦} ^{五七③}

さしまじ・る「差し混る」《動四段》

一り入用 ^{三三⑩}

さしむか・ふ「差し向かふ」《動四段》

一ひ入用 ^{九二⑩} ^{一〇⑥} ^{八八④}

さしも《副》^{三三⑩} ^{一八④} ^{三三④} ^{三三⑥}

三三⑥ ^{三三⑩} ^{三三⑤} ^{四九⑩}

五七⑦ ^{六二⑩} ^{六二⑩} ^{六二②} ^{六四③}

四三④ ^{五七⑩} ^{五七⑤} ^{五七①}

さ・す「止す」 ㊦かきさす
 さすが「流石」《副》 三三⑥
 さすがに「流石に」《副》 三三⑫
 さすら・ふ「流離ふ」《動下二段》
 一へ入用▽ *三〇③
 させる《連体》 三九⑦ 六〇② 六三⑥
 さそ・ふ「誘ふ」《動四段》
 一ふ入体▽ 一九② *六⑪
 さた「沙汰」 五八⑥ 九三⑬
 さだいしやう「左大将」 ㊦くでうどの
 のさだいしやう
 さだか・なり「定かなり」《形動ナリ活》
 一に入用▽ 二②
 さだま・る「定まる」《動四段》
 一り入用▽ 三三② 三三⑦
 さだ・む「定む」《動下二段》
 一め入未▽ 三三⑭
 一め入用▽ 一〇⑫
 さだめな・し「定め無し」《形ク活》
 一き入体▽ 三三③
 さだよりのちゅうなごん「定頼の中納言」
 言 二八⑧ 二八⑪
 さちさいはひ「幸幸ひ」 三三④
 さて「扱」《副・接》 ㊦さてのみ・さて

も
 ① 二五⑥ 四七⑦ 四八⑧ 五三⑬ 六三①
 ④ 五三⑪ 六〇⑤ 六〇⑦ 六三⑥
 さてさて「扱扱」《感》 五八⑧
 さてのみ《副》 三三⑭
 さても「扱も」《接》 ㊦さてもさても
 一四⑫ 六六⑥ 六六②
 さてもさても「扱も扱も」《接》 六四⑭
 さと「里・郷」 ㊦ひとごと・ふるさと・
 やまざと
 八八⑬
 さながら「宛ら」《副》 三三③
 さなへ「早苗」 三三②
 さぬきのみん「讃岐の院」 五三⑭
 さのみ「然のみ」《副》 二六⑨ 三三⑨
 さは「沢」 *三三④
 さは《副》 三三③ 三三⑨
 さは《接》 六四⑥
 さばかり「然許り」《副》 一三⑭ 一四⑦
 一五③ 一五⑥ 一八① 一八⑬ 一九⑤
 二〇⑤ 二〇⑬ 二二⑥ 二二⑬ 二四④
 二八① 二八⑦ 三三④ 三三⑤
 三三⑤ 三三⑥ 三三⑬ 三三⑭ 六四④

六〇⑨ 六〇⑬ 八二⑫ 九〇⑪ 九二⑩
 さは・る「障る」《動四段》
 一り入用▽ *三三⑪
 さび・し「寂し」《形シク活》
 一しく入用▽ 三三⑫
 さぶ《接尾》 ㊦かみさぶ
 さぶらひ「侍」 六三⑫
 さぶら・ふ「侍ふ・候ふ」《動四段》
 一ひ入用▽ 三三⑬ 六四① 二九⑧ 六三⑭
 六〇⑥ 八九⑨ 九二② 九三③ 九三⑦
 三三⑩
 一ふ入体▽ 二六⑤ 二九⑦ 三三⑬ 八八⑧
 さほど「然程」《副》 三三⑥ 三三⑨
 さま「様」 ㊦ありさま・おんさま・こ
 ころさま・こころのさま・こなた
 さま・なまさま・てしなさま・のぼり
 さま・ひとさま
 三三⑧ 三三⑩ 三三⑪ 三三⑫ 一四⑩
 三三④ 三三⑩ 二七⑦ 四八⑬ 五八①
 六〇④ 六〇⑧ 六四⑪ 七〇④ 七二⑫
 七三① 七三② 八九⑤
 さまかは・る「様変はる」《動四段》
 一り入用▽ 三三⑦
 さまか・ふ「様変ふ」《動下二段》

一へ入用▽ 二六④

さまこと・なり「様異なり」《形動ナリ

活》

一へ入用▽ 二六⑤

さまさま「様様」 五⑤ 七⑪ 一七②

三④ 三⑩ 三⑫ 五⑥ 七④

六⑦ 六⑫

さまさま・なり「様様なり」《形動ナリ

活》

一なり入用▽ 二四②

一へ入用▽ 一八⑤ 七②

さま・す「覚す」《動四段》

一す入止▽ *四⑭

さまで《副》 三七⑤ 四三⑫ 四九② 五⑩

さま②

さまざま「様ども」 六四⑬

さみだれ「五月雨」 二⑪

さ・む「冷む」《動下二段》

一め入用▽ 四⑬ 六⑦

一むる入体▽ 七⑤

さ・む「覚む」《動下二段》

一め入未▽ *六⑩

一め入用▽ 六⑩

さめがた・し「覚め難し」《形ク活》

一き入体▽ 四六⑧

さも「然も」《副》 二七① 五⑦

さやう「然様」 四⑩ 六⑪ 八⑥

六⑬ 六⑮

さよのころも「小夜の衣」 *六⑧

さらずは「然らずは」《接》 三②

さらでは「然らでは」《接》 六⑫

さらでも「然らでも」《副》 三② 三①

三⑫ 四⑭ 四⑯ 五⑨ 五⑬

さら・なり「更なり」《形動ナリ活》

一なり入止▽ 一七⑫

さらば「然らば」《接》 七⑧ 七⑤

六①

さりとて「然りとて」《接》 四⑭

さりとならば「然りとならば」《接》

四⑬

さりながら「然りながら」《接》 七⑥

さ・る「去る」《動四段》

一ら入未▽ *三③

さる「然る」《連体》 二四⑦ 三① 三③

二② 三⑤ 四⑩ 五⑫ 五⑯

さるにても「然るにても」《接》 七⑭

さるは「然るは」《接》 二⑧

さるべ・し「然る可し」《形ク活》

一き入体▽ 二⑬ 六⑨

さるものにて「然る物にて」《連》 一四⑤

されど「然れど」《接》 三⑨ 六⑬

五⑬ 五⑮ 五⑯ 六⑬

されども「然れども」《接》 四⑩ 八⑥

六⑥

されば「然れば」《接》 八⑪ 七⑧

三⑭ 五⑧ 七④ 八⑥

さわがれ「騒がれ」cf. おんさわがれ

さわぎ「騒ぎ」cf. ころさわぎ

三⑦

さわ・く「騒ぐ」《動四段》

一ぎ入用▽ *三七⑦

さるもんのかみ「左衛門の督」 四九①

三② 五⑥ 六②

さるもんのかみきんみつ「左衛門の督公

光」 二⑫

さんがいむあんいうによくわたく「三界

無安猶如火宅」 二①

さんげ・す「懺悔す」《動サ変》

一し入用▽ 五⑨

さんしにん「三四人」 四⑩ 七⑭

さんだいしふ「三代集」 五⑭

41 自立語の部

さんのみや 「三の宮」 cf.をんなさんの

みや

㊦⑥

さんまいきやう 「三昧経」 五九③

さんみ 「三位」 cf.はくがのさんみ

さんみにふだう 「三位入道」 六六③

さんみのちゅうじやう 「三位の中將」

六四⑫

し

し「師」 cf.のりのし

五七⑨

し「詩」 八八③

しあり・く 「為歩く」 《動四段》

一く八体 三六⑧

しいだ・す 「為出だす」 《動四段》

一し八用 六六⑭

一す八体 五九⑨

しい・づ 「為出づ」 《動下二段》

一で八用 五七⑫

一づる八体 五九⑩

し・う 「為得」 《動下二段》

一え八用 二四⑩ 六六②

しかるべ・し 「然る可し」 《形ク活》

一き八体 八①

しきぶきやうのなかのむすめ 「式部卿の

中の女」 五④

しきぶきやうのみや 「式部卿の宮」

五⑩ 五九③ 六六①

し・く 「如」 《動四段》

一く八体 三三⑫

し・く 「敷く」 《動四段》 cf.かたしく

一か八未 五④

し・く 「頻く」 cf.うちしく

しぐれ 「時雨」 二六⑭ *五③

しげ・し 「繁し」 《形ク活》

しげ八語幹 六八④

一き八体 五二⑦

しげみ 「茂み」 三⑩

しげりわた・る 「茂り渡る」 《動四段》

一り八用 六二④

しげ・る 「茂る」 cf.おひしげる

しこにん 「四五人」 五九⑩

じじゅうのきみ 「侍従の君」 三七⑬

しそくなしのせうしやう 「紙燭なしの少

將」 六三⑫

した 「下」 cf.このした

*八三⑩

したかせ 「下風」 五七⑦

したたか・なり 「健かなり」 《形動ナリ

活》

一なる八体 六四⑫

したば 「下葉」 cf.くづのしたば

しちねん 「七年」 cf.けんきうしちねん

しちはちにん 「七八人」 七⑧ 九①

しづく 「雫」 三②

しづのをだまき 「倭文の苧環」 五五⑧

しづま・る 「静まる」 《動四段》

一り八用 二四② 六二④

しづ・む 「沈む」 《動四段》 cf.おもひし

づむ

一み八用 *六六②

しづ・む 「鎮む」 cf.もてしづむ

しつらひ cf.おんしつらひ

しでうだいなごんきんだふ 「四条大納言

公任」 五九⑩

しでのやま 「死出の山」 *五五⑭

しでのやまち 「死出の山路」 二⑬ *二⑭

しな 「品」 五③

しなくだ・る 「品下る」 《動四段》

一り八用 二⑩

しなさだめ 「品定め」 cf.あまよのしな

さだめ

しな・す「為成す」《動四段》

―しへ用▽ 三①

しに「死に」cf.そらじに

しにい・る「死に入る」《動四段》

―りへ用▽ 六⑩

しにかへ・る「死に返る」《動四段》

―りへ用▽ 一②

―るへ止▽ 三⑭

し・ぬ「死ぬ」《動ナ変》

―なへ未▽ 四⑬

―ぬへ止▽ 八⑥

しのみ「四の君」 五③ 六③ 三①

しのみのはは「四の君の母」 五⑩

しのび「忍び」 *八⑤③

しのびありき「忍び歩き」 cf.おんしの

びありき

しのびがた・し「忍び難し」《形ク活》

―くへ用▽ 四⑧⑥

しのびどころ「偲び所」 三③

しのびね「忍び音」 一⑦

しのびやか・なり「忍びやかなり」《形

動ナリ活》

―にへ用▽ 四⑭ 五③

しの・ぶ「忍ぶ」《動上二段》 cf.かくれ

しのぶ

―びへ用▽ 六⑬ 三⑦ 六⑫

しば「芝」 cf.みちしば

しばし「暫し」《副》 *三⑩⑩ 三②

四⑭ 四⑭

しひて「強ひて」《副》 七② 二⑦

三① 二⑤⑤ 五⑩⑩

じひふか・し「慈悲深し」《形ク活》

―くへ用▽ 五①

しふ「集」 cf.きんえふしふ・きんぎょ

くしふ・こきんしふ・さんだいしふ

・しふるしふ・せんざいしふ・せん

しふ・ちよくせんしふ・はちだいし

ふ・まんえふしふ

五⑥ 五④ 五⑭ 七① 七⑩

じぶぐ「十具」 九⑤③

じふごにち「十五日」 cf.はちぐわつじ

ふごにち

じふごや「十五夜」 cf.はちぐわつじふ

ごや

じふしちのならび「十七の並び」 一①

しふども「集ども」 五⑨ 五④

じふらせち「十羅刹」 七④

じふるくしち「十六七」 五⑫

しふるしふ「拾遺集」 五③

しふるせう「拾遺抄」 五③

しほ「塩」 *五⑬

しほしほと《副》 *三⑭⑭「塩」ヲカケ

ル)

しみこほ・る「凍み氷る」《動四段》

―りへ用▽ 三①

しみづ「清水」 *五⑩

し・む「染む」《動四段》

―みへ用▽ 二⑪ 三⑦ 五⑩ 二⑦⑩

四⑩

―むへ止▽ 四⑬ 七⑭

―めへ已▽ 三⑥

し・む「染む」《動下二段》 cf.おもひし

む

―めへ用▽ 八⑬ 三⑬⑬ *三⑦⑦ 六⑦⑦

しめじめと《副》 七⑭ 四⑨ 五⑬

しめやか・なり《形動ナリ活》

―にへ用▽ 五⑨

しめ・る「湿る」《動四段》

―りへ用▽ 三⑥

しもづかへ「下仕」 三⑩⑩

しやう「姓」 四⑭⑭

じやうぐわつ「正月」 六七〇
 じやうぐわついちじつ「正月一日」 三六〇
 じやうげ「上下」 一七〇
 じやうじ「障子」 cf. かみじやうじ
 じやうじの糸「障子の絵」 二〇
 じやうず「上衆」 cf. こころじやうず
 じやうずめか・し「上衆めかし」《形シク活》
 ーしくへ用▽ 四〇二
 じやうぜん「生善」 cf. めつざいじやうぜん
 ぜん 三三
 じやうぞく「装束」 cf. じやうぞく 九八
 じやうど「浄土」 二四
 じやうとうもんらん「上東門院」 二二
 八七 八六
 じやうのこゝろ「筆の琴」 四六 八六
 九四
 じやうぶつ「成仏」 cf. そくしんじやうぶつ
 ぶつ
 じやく「笏」 三三
 じゆ「首」 cf. ひやくしゆ
 じゆじやくるん「朱雀院」 cf. すぎくるん

しゅつけ・す「出家す」《動サ変》
 ーしへ用▽ 三六
 しゅみやうにふをみやうえうふもんぶつ
 みやう「從冥入於冥永不聞仏名」 三六
 三六
 しゅんじう「春秋」 一
 二
 じやうめいもん「承明門」 八七
 八七
 じよしゃのひじり「書写の聖」 八二
 八二
 じらかはるん「白河院」 三六
 三六
 じら・す「知らず」《動下二段》
 ーせへ用▽ 三六
 じら・ぶ「調ぶ」《動下二段》
 ーべへ用▽ 三六
 三六
 じり「尻」 三六
 三六
 じりぞ・む「知り初む」《動下二段》
 ーめへ用▽ 三六
 三六
 し・る「知る」《動四段》 cf. おもひしる
 ・ききしる・みしる
 ーらへ未▽ 八 二〇 三三 二六
 三三 三六 三六 三六
 *三六 *三六 *三六 *三六
 *三六 *三六 *三六 *三六
 ーりへ用▽ *三六
 ーるへ止▽ *三六

ーるへ体▽ *三六
 し・る「知」《動下二段》 cf. ひとしれぬ
 ーれへ未▽ *三六
 三六
 しるし「験」 一四
 一四
 しる・す「記す」《動四段》 cf. かきしる
 す
 ーさへ未▽ 三六
 三六
 しるべ「導」 *三六 九一
 九一
 しるがねのてうし「銀の銚子」 三六
 三六
 しるがねのをしき「銀の折敷」 三六
 三六
 しる・し「白し」《形ク活》
 ーきへ体▽ 三六
 三六
 しるらか・なり「白らかなり」《形動ナリ活》
 ーにへ用▽ 四一
 四一
 しわざ「仕業」 一五 三三 四二
 三六 三六 三六
 三六 三六 三六
 三六 三六 三六
 しを・る「萎る」《動下二段》
 ーるるへ体▽ *三六
 三六
 しんさいしやうのきみ「新宰相の君」 三六
 三六
 しんでん「寢殿」 二七 四四
 四四
 しんどう・す「震動す」 cf. だいちろく

はんしんどうす

しんわう「親王」 cf. もろこしのしんわ

う

しんるんひやくしゅ「新院百首」 亥①

す

す「簾」 cf. みす

六① 九⑩ 六⑫

す「為」《動サ変》 cf. うしろみす・うち

す・おんどぎす・ぐす・くんず・け

たいす・ころおとりす・ころま

さりす・ごらんず・ざんげす・しゅ

つけす・ずんず・せんず・そらねす

・だいちろくはんしんどうす・たい

めんす・たびねす・とはずがたりす

・とりむすめす・なにしに・ねざめ

す・ものがたりす・ものごのみす・

ものす・よういす

せ八未V 五⑩ 一八⑪ 三三① *三⑩

四六⑭ *四七⑪ 四八③ 五① *五⑬

*五⑭ 六① 五⑪ *六⑬ 八③

*八⑥ 八④ 八七⑪ 八七⑫ 八八⑥

八八⑬ 九⑫

し八用V 二⑨ 二⑤ 四⑦ 五① 九⑫

二② 一四⑥ 一四⑨ 一八⑬ 三六⑦

二九① 元④ 元⑥ 三⑩ *三⑪

三⑨ 四③ 四③ 四⑥ 四⑨

四⑤ 五① 五③ 五④ 五⑬

五① 五④ *五② 五⑧ 五⑩

五① 五⑥ 六⑬ *六② 六②

七⑫ 七⑫ 七⑫ 七⑩ 七②

八⑧ 八⑫ 八④ 九⑬ 九⑨

す八止V 一③ 三⑤ 五② *五⑧

六② 六③

する八体V 三③ 二⑩ 二⑨ 二九⑪

三⑩ 五⑨ 五③ 六① 六⑬

七⑥ 七⑫

すれ八已V 六⑬ 二⑨ 四九⑤

す・う「握う」《動下二段》 cf. ひきすう

一系八未V 七④

一系八用V 九⑥

すか・す「賺す」《動四段》

一さ八未V 六⑪

すがた「姿」 cf. あますがた・なほしす

がた

一④ 八⑨ 五⑫

すから《接尾》 cf. よもすから

すぎう・し「過ぎ憂し」《形ク活》

一く八用V *五⑩

一かり八用V *五⑨

一き八体V *五③

すぎ「ころ」好き心」 七⑫

すきま「隙間」 二④

す・く「好く」《動四段》

一き八用V 二⑨

す・く「透く」《動四段》

一か八未V 五①

す・ぐ「過ぐ」《動上二段》 cf. ゆきすぐ

一ぎ八未V 八⑭

一ぎ八用V 一② 二五⑪ 五⑦ 六③

すぐ・す「過ぐす」《動四段》

一す八体V 二⑥

すくせ「宿世」 cf. ろくろすくせ

一九⑦ 四⑬

すくな・し「少なし」《形ク活》

一く八用V 六① 七① 七⑫

一う八音便V 六⑩ 六⑬

すくな・なり「少ななり」 cf. ことすく

ななり

すぐ・る「優る」《動四段》

一り八用V 八⑦

すぐ・る「優る」《動下二段》

―れへ未入 一六〇

―れへ未入 一六〇 三三〇 三三〇 三三〇

二〇〇 一八〇

すこし「少し」《副》cf. ますますこし

三二〇 三二〇 三二〇 三二〇 三二〇

三三〇 三三〇

すこしも「少しも」《副》二〇 六二

すこす「過てす」《動四段》cf. おもひ

すこす

―さへ未入 五〇

すざくゝるん「朱雀院」三二〇

すざひ「遊び」三三〇

すざ・ぶ「遊ぶ」cf. くちざぶぶ

すざま・じ「婁じ」《形シク活》

―じくへ未入 九五 三〇

―じきへ未入 五〇

すざ・む「遊ぶ」cf. くちざぶぶ

す・す「誦す」cf. うちすす

すず「数珠」七〇

すずき「苜」* 七五 七六 七六 七六

すずしのきぬ「生絹の衣」四〇

すす・む「進む」《動四段》

―むへ未入 二四

「すずり」硯」cf. おんすずり

すぢ「筋」一〇 二〇 三〇 三〇 三〇

六〇 三〇

す・つ「捨つ」《動下二段》cf. おぼしす

つ・ひきすつ

―てへ未入 三〇 * 三〇

すてがた・し「捨て難し」《形ク活》

―くへ未入 三〇

―きへ未入 一八 一八 七四

すへて「総て」《副》一四 二〇 二〇 二九

三〇 四〇 五〇 五〇 五〇

六〇 七〇 八〇 九〇

すま「須磨」へ巻名 一六 一六 一六

すま「須磨」へ地名 三三 三三 三三

二四 三六

すま・す「済ます」cf. ひきすます

すま・す「澄ます」《動四段》cf. こころ

すます

―しへ未入 一〇

すまのわかれ「須磨の別れ」二九

すまのゑ「須磨の絵」三三 三三 三三

すまひ「住まひ」cf. おんすまひ

一九

すまふのせち「相撲の節」一七

すみ「隅」四〇

すみか「住処」一四

すみだがは「隅田川」三〇

すみのま「隅の間」三〇

すみは・つ「住み果つ」《動下二段》

―てへ未入 三三

すみよし「住吉」へ作品名 一五

す・む「住む」《動四段》

―みへ未入 三三 三三 三三 三三

一〇

―むへ未入 三三

―めへ未入 * 三三

す・む「澄む」《動四段》

―みへ未入 一〇

すもりのきみ「巢守の君」三三

すもりのなかのきみ「巢守の中の君」三三

す・る「擦る」cf. おしする

ずるじん「隨身」三三 三三

すゑ「末」cf. あさちがすゑ・すゑすゑ

そぎすゑ・よのすゑ

三三 三三 三三 三三 三三

すゑがれ「末枯れ」三三

すゑすゑ「末末」一七

すゑつかた「末っ方」 六⑫

すゑつむはな「末摘花」ハ人名 一九①

すゑのまつ「末の松」 *三⑨

すゑのよ「末の世」 九③ 二六⑥ 八七⑭

すゑはのつゆ「末葉の露」ハ作品名 六⑩

すんず「誦ず」《動サ変》 cf. うちすんず

―じハ用 三⑦

せ

せ「瀬」 cf. たきつせ・ふちせ

*四⑦

せい「制」 六⑨

せいしほさつ「制至菩薩」 八⑭

せいせうなごん「清少納言」 七②

八〇④

せう「抄」 cf. しふむせう

五⑥

せうしがめ「簫子が妻」 八⑫

せうしやう「少将」 cf. くらうどのせう

しやう・しそくせいのせうしやう・

ていかせうしやう・べんのせうしやう

三⑤ 六② 六⑤

せうせう「少少」《副》 三⑦ 五⑩

せうなごん「少納言」 cf. せいせうなごん

せうねん「少年」 四⑩

せかい「世界」 九⑪

せき「関」 cf. あぶさかのせき

三②

せきか・ぬ「堰きかぬ」《動下二段》

―ねハ用 三③

せきもり「関守」 一〇⑭

せち「節」 cf. すまふのせち

ばし

―くハ用 三⑫

せみまろ「蟬丸」 八①

せめて《副》 三⑬ 三⑯ 三⑰ 三⑱

せんくわんぱくのたいしやう「前関白の

大将」 六⑦

せんさい「前裁」 三⑩ 三⑬

せんさいぐう「前斎宮」 六⑧⑭

せんざいしふ「千載集」 高⑦ 六④

せんじ「宣旨」 cf. とうぐうのせんじ・

みやのせんじ・やまとせんじ

せんしふ「撰集」 cf. せんず

三⑧ 三⑨

せんず「撰集」 cf. せんしふ

五⑭

せんず「撰ず」《動サ変》

―じハ用 五⑩

せんねん「千年」 八③

せんぶ「千部」 一三⑦ 一三⑦

そ

そ「其」 cf. その・そは・そも

そ「衣」 cf. おんぞ

そう「僧」 cf. おほちのそう

七⑥

そうしども「僧子ども」 八③

そうつ「僧都」 cf. なにがしそうつ

そぎすゑ「削ぎ末」 *五④

そ・ぐ「削ぐ」《動四段》 cf. ことそぐ

―ぎハ用 五⑥

そくしんじやうぶつ「即身成仏」 六⑥

そこ「其処」《代》 *六③ 六⑧

そこ「底」 *四⑦

そし・る「誇る」《動四段》

―りハ用 五⑫

そそのかす「唆かす」《動四段》

しへ入用▽ 三①

そぞろ・く「漫ろく」《動四段》

しへ入用▽ 六⑦

そぞろことども「漫ろ事ども」 七①

そぞろ・なり「漫ろなり」《形動ナリ活》

しへ入用▽ 八⑨ 七⑭

そち「師」 cf. ゆきひらのそち

そちのなかのきみ「師の中の君」 六⑪

そで「袖」 三⑩ *三⑬ *三⑭ 三⑰

*三⑦ 四⑤ *二⑧ 六⑤⑨ *六②

五④

そと「外」 cf. にせんりのそと

そなた「其方」《代》 二④

そねま・し「嫉まし」《形シク活》

しへ入用▽ 一⑨⑩

そね・む「嫉む」《動四段》

しへ入用▽ 三⑦

その「其の」《連》 五③ 六④ 一〇②

二⑬ 一八② 一九⑥ 三〇① 三二①

三⑭ 二四⑧ 二六③ 三三⑬ 四〇⑬

三⑰ 三⑱ 五② 五④ 六⑭

六⑱ 六⑳ 六⑳ 七〇④ 七〇④

七⑳ 七㉑ 七㉒ 七㉓ 七㉔

七㉕ 七㉖ 八〇③ 八〇③ 八二⑦

三② 六⑤ 六⑩ 八① 八②

八④ 八⑨ 九⑭ 九⑰ 九⑱

そのかみ「当時」 一⑤ 九⑰ 七

そのたまへ人名▽ 五③

そは「其は」《連》 二⑦⑤

そは「傍」 七⑭

そばだ・つ「敲つ」《動下二段》

しへ入用▽ 三⑧

そひぐる・し「添ひ苦し」《形シク活》

しへ入用▽ 八⑨⑩

そひ・るる「添ひ居る」《動上一段》

しへ入用▽ 七⑦

そ・ふ「添ふ」《動四段》 cf. たちそふ

そ・ふ「添ふ」《動下二段》

しへ入用▽ 四⑩

しへ入用▽ 一⑥ *三⑥ *六⑥

そ・む「初む」 cf. おもひそむ・しりそ

む・みそむ

そ・む「染む」《動下二段》

しへ入用▽ *三⑦

しへ入用▽ 一④ 六⑱ 五⑭

そむ・く「背く」《動四段》

しへ入用▽ 八⑱ 九⑲

しへ入用▽ *三⑧

しへ入用▽ *三②

そも「其も」《連》 五⑥ 二四⑭ 二六②

四⑯ 七⑰

そよ・く「戦ぐ」《動四段》

しへ入用▽ 三②

そら「空」 二八⑥ *二八⑧ 三① 三⑬

*三⑨ *三⑮ *三⑰

そらごと「空事」 七⑧

そらじに「空死に」 六⑦

そら・なり「空なり」《形動ナリ活》

しへ入用▽ 一⑤⑥ 四④ 四⑯ 五⑩

そらね「空寝」 八⑬

そらね・す「空寝す」《動サ変》

しへ入用▽ 三②

そ・る「剃る」《動四段》

しへ入用▽ 一④ 五⑭

それ「其」《代》 五⑦ 八⑥ 一四④ 一四⑭

一⑲ 三⑲ 四⑱ *四⑱ 五⑲

五⑳ 六⑱ 六⑱ 六⑱ 六⑱

七⑱ 七⑱ 七⑱ 七⑱ 七⑱

それがし「某」《代》 cf. とつちのちゅうじ

やうそれがし

それゆゑ「其れ故」(接) 八六⑭
 五〇
 さん・ず「損」 cf. まねびそんず
 さんわう「孫王」 四〇①

た

たい「対」 三⑦
 たいあんだう「戴安道」 八⑫
 だいいち「第一」 cf. ほっけさいだいいち
 ち
 六一① 一二② 一四② 五⑭
 ださいあん「大斎院」 八⑦ 六①
 たいし「太子」 四⑨
 だいい「大事」 三③
 たいしやう「大将」 cf. かほるたいしやう・
 う・ぜんくわんぱくのたいしやう・
 とのたいしやう・ひげくろのたい
 しやう・まめびとのたいしやう・み
 やのたいしやう
 三⑦⑤ 三③③ 四②② 四⑥⑥ 四⑥⑥
 四⑥⑥ 四⑥⑥ 四⑥⑥ 四⑥⑥
 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤
 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤
 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤
 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤ 六⑤⑤
 たいしやうのひめぎみ「大将の姫君」
 五①①

だいちろくはんしんどう・す「大地六反
 震動す」

—する入体V 四⑦
 だいなごん「大納言」 cf. あぜちのだいなごん・
 こうばいのだいなごん・こ
 んだいなごん
 六③③ 六④④
 だいなごんのきたのかた「大納言の北
 の方」 六⑩⑩
 だいに「大貳」 一⑨②
 だいにがむすめ「大貳が女」 六⑦⑩
 だいにのむすめ「大貳の女」 五⑥⑥
 だいのうた「題の歌」 五⑬⑬ 五⑭⑭
 五②②
 たいのきみ「対の君」 五②②
 たいふ「大輔」 cf. いせのたいふ
 だいまやうじん「大明神」 cf. かものだ
 いみやうじん
 たいめん・す「対面す」(動サ変)
 —し入用V 四⑫⑫
 だいもん「大門」 二②
 たう「唐」 五④④
 だう「堂」 cf. ちぶつだう・ほっけだう・
 みだう